

令和7年度

全国学力・学習状況調査結果の概要

令和7年7月

高知県教育委員会

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

- (2) 実施日 教科に関する調査 令和7年4月17日(木) ※中学校理科以外
- 中学校理科調査 令和7年4月14日(月)～4月17日(木)
- 児童質問調査 令和7年4月18日(金)～4月30日(水)
- 生徒質問調査 令和7年4月14日(月)～4月17日(木)

(3) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科を出題
(中学校理科は文部科学省 CBT システム(MEXCBT)によるオンライン方式で実施)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査を実施

(4) 県内(公立学校)の参加状況

- ◇ 参加学校数

小学校

市町村(学校組合)立小学校	義務教育学校	特別支援学校(小学部)	合計
169校	4校	3校	176校

中学校

市町村(学校組合)立中学校、 県立中学校	義務教育学校	特別支援学校(中学部)	合計
89校	4校	1校	94校

<参加校数>

・小中学校	258校
・義務教育学校	4校
・特別支援学校	3校
計	265校

※義務教育学校は、小・中学校の義務教育を9年間の一貫したカリキュラムで運営する学校であり、小・中ともに実施する学校が4校であるため、合計が4校となっている。

※特別支援学校は、1校の中に小学部や中学部があり、小学部・中学部ともに実施する学校が1校、小学部のみ実施する学校が2校であるため、合計が3校となっている。

- ◇ 小学校解答(回答)児童数

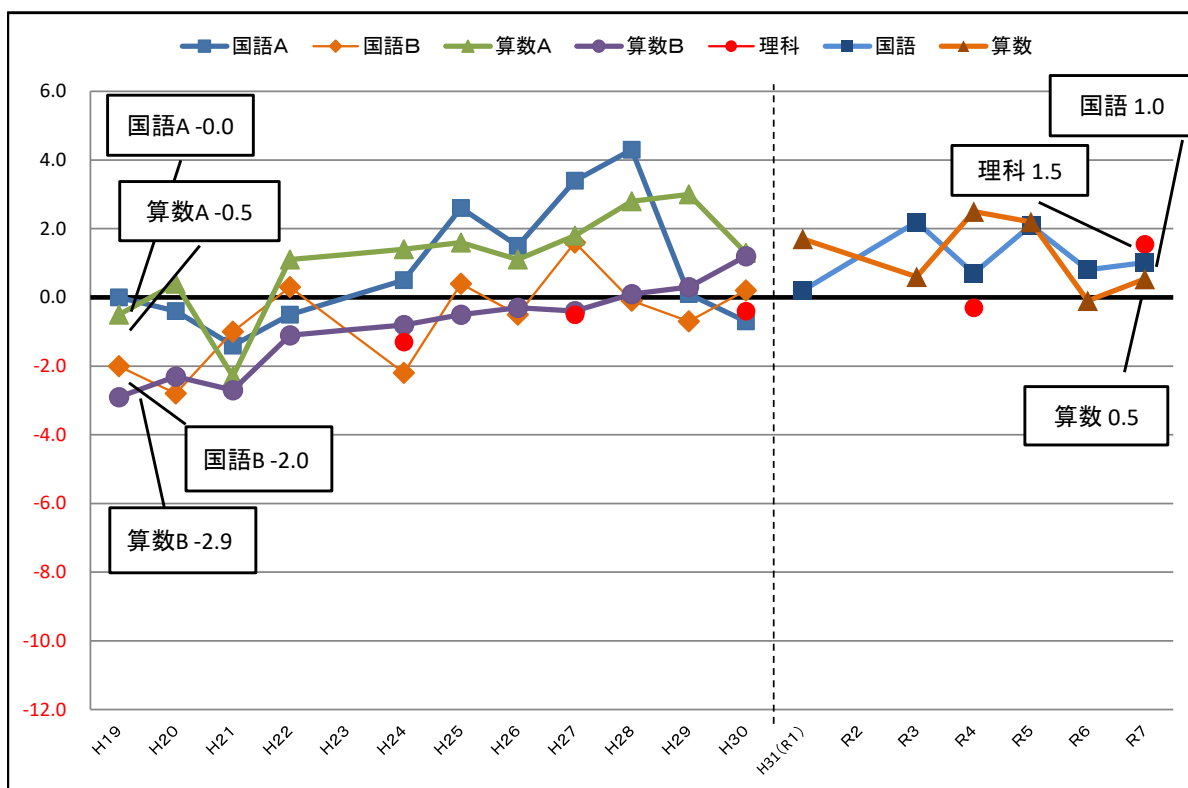
国語	4,615名
算数	4,611名
理科	4,614名
児童質問	4,652名

- ◇ 中学校解答(回答)生徒数

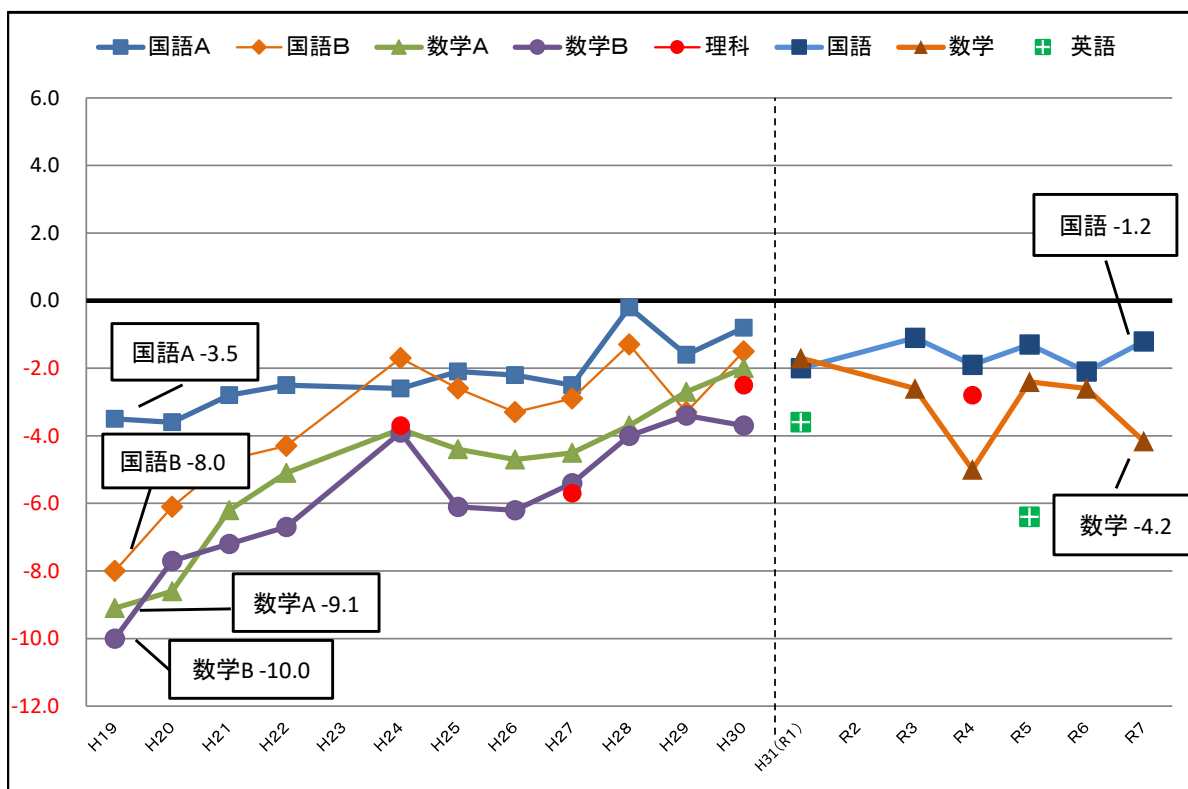
国語	3,699名
数学	3,702名
理科	3,738名
生徒質問	3,777名

平成19年～令和7年度 全国平均正答率との差(高知県平均正答率)

小学校調査



中学校調査



※縦軸は全国の平均正答率との差をポイントで示している。(平成23年度の全国の値はない。)

※平成31年度(令和元年度)よりABが統合。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

※令和7年度中学校理科はIRTによる結果提供のため、数値は表示していない。

教科別平均正答率【小学校】

小学校(国語・算数)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和7年度	67.8	66.8	1.0	58.5	58.0	0.5
令和6年度	68.5	67.7	0.8	63.3	63.4	-0.1
令和5年度	69.3	67.2	2.1	64.7	62.5	2.2
令和4年度	66.3	65.6	0.7	65.7	63.2	2.5
令和3年度	66.9	64.7	2.2	70.8	70.2	0.6
平成31(令和元)年度	64.0	63.8	0.2	68.3	66.6	1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	70.0	70.7	-0.7	64.8	63.5	1.3
	平成29年度	74.9	74.8	0.1	81.6	78.6	3.0
	平成28年度	77.2	72.9	4.3	80.4	77.6	2.8
	平成27年度	73.4	70.0	3.4	77.0	75.2	1.8
	平成26年度	74.4	72.9	1.5	79.2	78.1	1.1
	平成25年度	65.3	62.7	2.6	78.8	77.2	1.6
	平成24年度	82.1 (81.5~82.7)	81.6 (81.4~81.7)	0.5	74.7 (73.9~75.6)	73.3 (73.1~73.5)	1.4
	平成23年度	81.0			82.3		
	平成22年度	82.8 (82.2~83.5)	83.3 (83.2~83.5)	-0.5	75.3 (74.3~76.3)	74.2 (74.0~74.4)	1.1
	平成21年度	68.5	69.9	-1.4	76.4	78.7	-2.3
	平成20年度	65.0	65.4	-0.4	72.6	72.2	0.4
	平成19年度	81.7	81.7	0.0	81.6	82.1	-0.5
B	平成30年度	54.9	54.7	0.2	52.7	51.5	1.2
	平成29年度	56.8	57.5	-0.7	46.2	45.9	0.3
	平成28年度	57.7	57.8	-0.1	47.3	47.2	0.1
	平成27年度	67.0	65.4	1.6	44.6	45.0	-0.4
	平成26年度	55.0	55.5	-0.5	57.9	58.2	-0.3
	平成25年度	49.8	49.4	0.4	57.9	58.4	-0.5
	平成24年度	53.4 (52.4~54.3)	55.6 (55.4~55.8)	-2.2	58.1 (57.1~59.1)	58.9 (58.7~59.1)	-0.8
	平成23年度	44.3			46.2		
	平成22年度	78.1 (77.2~79.0)	77.8 (77.7~78.0)	0.3	48.2 (47.2~49.2)	49.3 (49.1~49.5)	-1.1
	平成21年度	49.5	50.5	-1.0	52.1	54.8	-2.7
	平成20年度	47.7	50.5	-2.8	49.3	51.6	-2.3
	平成19年度	60.0	62.0	-2.0	60.7	63.6	-2.9

小学校(理科)			
	理科平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
令和7年度	58.6	57.1	1.5
令和4年度	63.0	63.3	-0.3
平成30年度	59.9	60.3	-0.4
平成27年度	60.3	60.8	-0.5
平成24年度	59.6 (58.8~60.4)	60.9 (60.8~61.1)	-1.3

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

※平成31年度よりAB統合

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

教科別平均正答率【中学校】

中学校(国語・数学)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和7年度	53.1	54.3	-1.2	44.1	48.3	-4.2
令和6年度	56.0	58.1	-2.1	49.9	52.5	-2.6
令和5年度	68.5	69.8	-1.3	48.6	51.0	-2.4
令和4年度	67.1	69.0	-1.9	46.4	51.4	-5.0
令和3年度	63.5	64.6	-1.1	54.6	57.2	-2.6
平成31(令和元)年度	70.8	72.8	-2.0	58.1	59.8	-1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	75.3	76.1	-0.8	64.1	66.1	-2.0
	平成29年度	75.8	77.4	-1.6	61.9	64.6	-2.7
	平成28年度	75.4	75.6	-0.2	58.5	62.2	-3.7
	平成27年度	73.3	75.8	-2.5	59.9	64.4	-4.5
	平成26年度	77.2	79.4	-2.2	62.7	67.4	-4.7
	平成25年度	74.3	76.4	-2.1	59.3	63.7	-4.4
	平成24年度	72.5 (71.8~73.1)	75.1 (75.0~75.2)	-2.6	58.3 (57.4~59.2)	62.1 (62.0~62.3)	-3.8
	平成23年度	78.5			54.3		
	平成22年度	72.6 (72.0~73.3)	75.1 (75.0~75.2)	-2.5	59.5 (58.3~60.7)	64.6 (64.4~64.8)	-5.1
	平成21年度	74.2	77.0	-2.8	56.5	62.7	-6.2
	平成20年度	70.0	73.6	-3.6	54.5	63.1	-8.6
	平成19年度	78.1	81.6	-3.5	62.8	71.9	-9.1
B	平成30年度	59.7	61.2	-1.5	43.2	46.9	-3.7
	平成29年度	68.9	72.2	-3.3	44.7	48.1	-3.4
	平成28年度	65.2	66.5	-1.3	40.1	44.1	-4.0
	平成27年度	62.9	65.8	-2.9	36.2	41.6	-5.4
	平成26年度	47.7	51.0	-3.3	53.6	59.8	-6.2
	平成25年度	64.8	67.4	-2.6	35.4	41.5	-6.1
	平成24年度	61.6 (60.9~62.3)	63.3 (63.2~63.4)	-1.7	45.4 (44.3~46.6)	49.3 (49.2~49.5)	-3.9
	平成23年度	61.0			45.2		
	平成22年度	61.0 (60.0~62.1)	65.3 (65.1~65.5)	-4.3	36.6 (35.4~37.9)	43.3 (43.1~43.5)	-6.7
	平成21年度	69.8	74.5	-4.7	49.7	56.9	-7.2
	平成20年度	54.7	60.8	-6.1	41.5	49.2	-7.7
	平成19年度	64.0	72.0	-8.0	50.6	60.6	-10.0

中学校(理科)						
	理科平均正答率(%)		高知県と 全国の差		平均IRTスコア	
	高知県(公立)	全国(公立)			高知県(公立)	全国(公立)
令和4年度	46.5	49.3	-2.8	令和7年度	483	503
平成30年度	63.6	66.1	-2.5			
平成27年度	47.3	53.0	-5.7			
平成24年度	47.3 (46.5~48.0)	51.0 (50.9~51.1)	-3.7			

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	～317	318～442	443～567	568～691	692～

○IRT(Item Response Theory: 項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

○IRTスコア

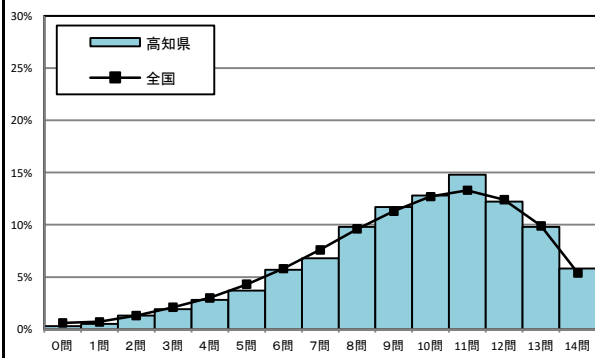
IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

各教科に関する学力の状況

〔小学校国語〕

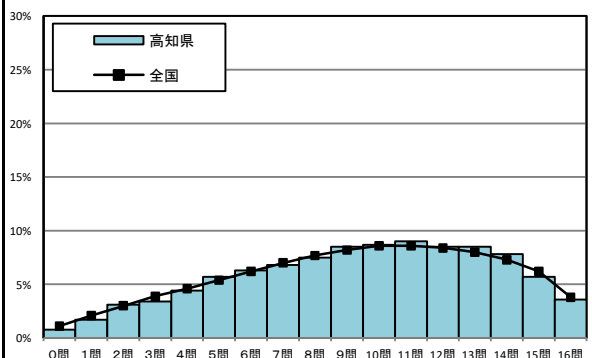
正答数分布の状況

国語	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,615	9.5	67.8	10.0	3.0
全国	936,137	9.4	66.8	10.0	3.0

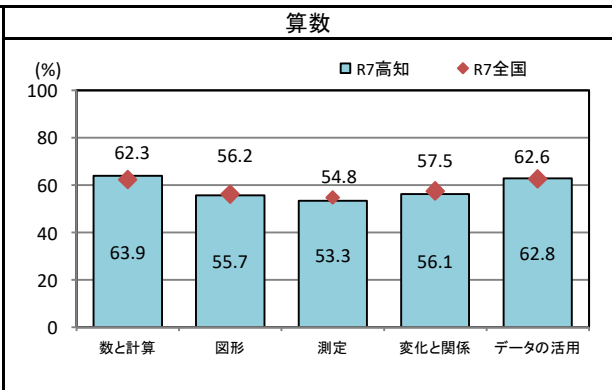
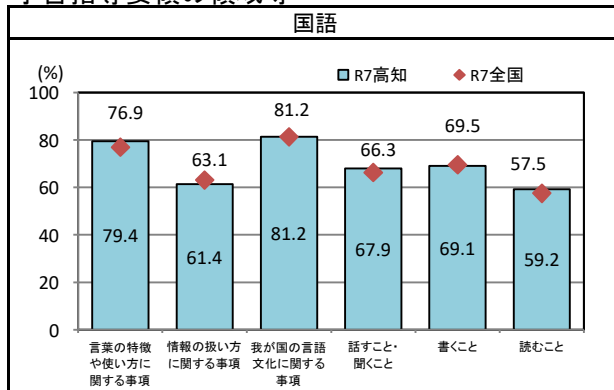


〔小学校算数〕

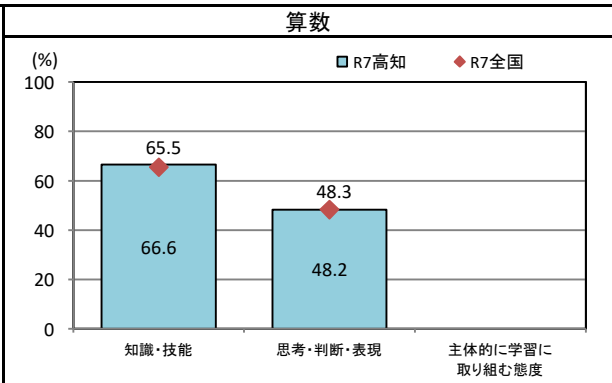
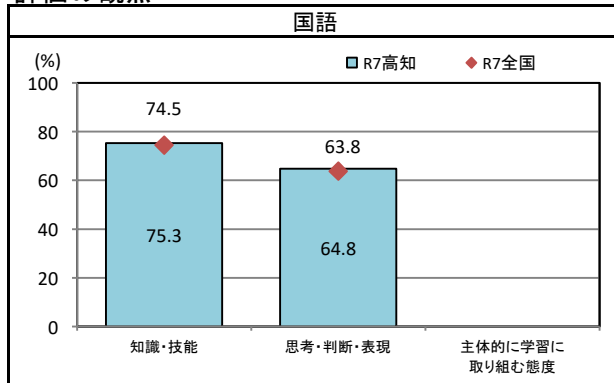
算数	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,611	9.4	58.5	10.0	3.9
全国	936,399	9.3	58.0	10.0	4.0



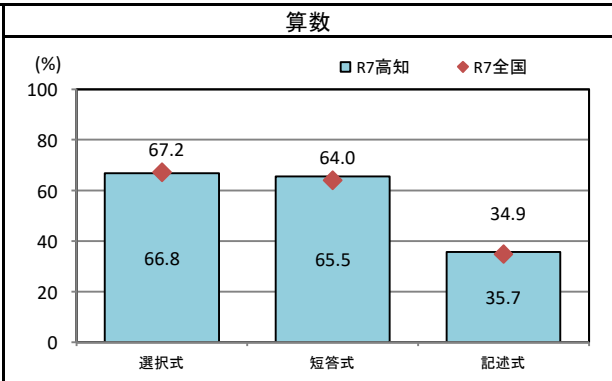
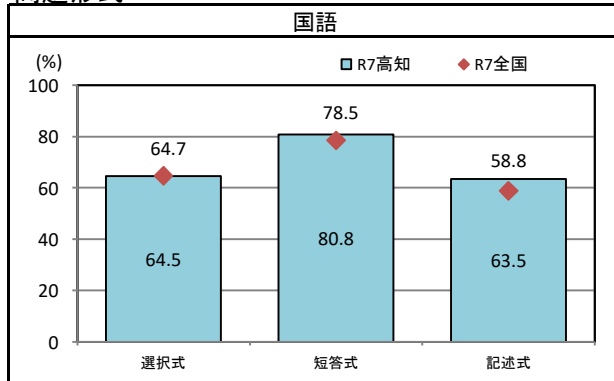
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式

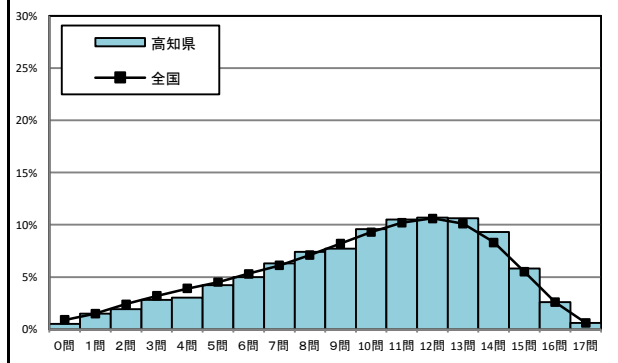


各教科に関する学力の状況

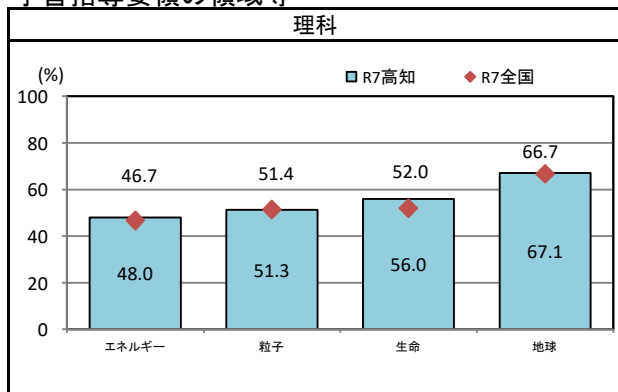
〔小学校理科〕

正答数分布の状況

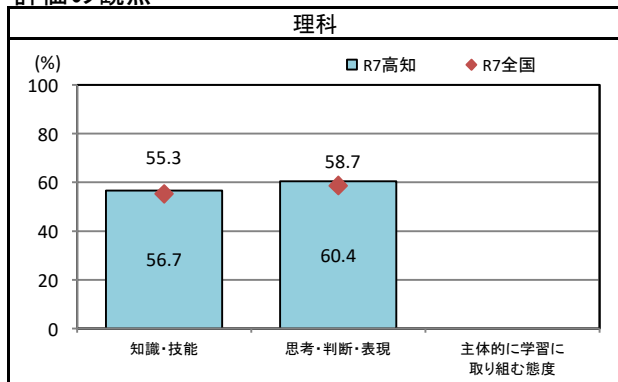
理科	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,614	10.0	58.6	11.0	3.7
全国	936,576	9.7	57.1	10.0	3.8



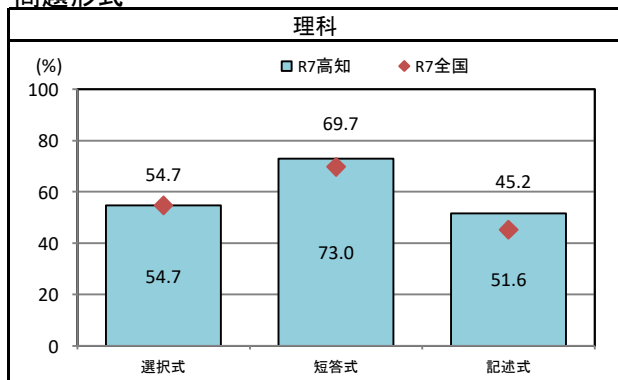
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式



小学校 国語

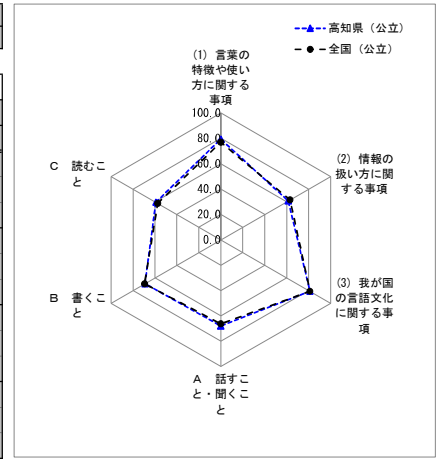
・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立）	全国（公立）	対象児童数	高知県（公立）	全国（公立）
	174	18,265		4,615	936,137

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				高知県(公立)	全国(公立)
全体			14	67.8	66.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	79.4	76.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	61.4	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	81.2	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	67.9	66.3
		B 書くこと	3	69.1	69.5
		C 読むこと	4	59.2	57.5
評価の観点		知識・技能	4	75.3	74.5
		思考・判断・表現	10	64.8	63.8
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	64.5	64.7
		短答式	3	80.8	78.5
		記述式	2	63.5	58.8

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等				高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差（公立）	高知県（公立）	全国（公立）	
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと								C 読むこと
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかをみる				5・6ア		○	○		55.7	53.3	2.4	0.1	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる		5・6イ				○	○		61.4	63.1	-1.7	0.1	0.5
1三（1）	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかをみる				5・6エ		○	○		75.0	71.8	3.2	0.1	0.6
1三（2）	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかをみる				5・6エ		○	○		73.2	73.7	-0.5	0.2	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかをみる				3・4イ		○	○		62.9	65.5	-2.6	0.4	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる				5・6エ		○	○		80.7	81.8	-1.1	0.3	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる				5・6ウ		○		○	63.7	61.3	2.4	3.1	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す（このみ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかをみる	5・6エ					○		○	84.2	81.6	2.6	4.3	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あつじ日）		5・6エ					○		○	74.7	72.1	2.6	2.3	4.3
3一	【資料１】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかをみる			5・6ウ			○	○		81.2	81.2	0.0	0.3	1.3
3二（1）	【木村さんのメモ】の空欄Ａに入る適切な言葉を【資料２】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかをみる					1・2ア	○	○		83.5	81.6	1.9	1.1	2.9
3二（2）	【資料３】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかをみる				5・6ア		○	○		49.6	51.3	-1.7	0.5	2.4
3三（1）	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Ａに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかをみる				5・6ウ		○	○		40.6	40.8	-0.2	0.9	3.4
3三（2）	【資料１】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料２】、【資料３】、【資料４】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかをみる				5・6ウ		○		○	63.3	56.3	7.0	8.5	16.2

今回の調査からわかったこと

- 大問3三(2)の正答率は、全国の平均正答率と比較して7.0ポイント高い結果となった。無解答の割合も全国に比べると少なく、**記述することに抵抗なく取り組める児童が多い**。児童が書いたものについて個別にコメントを入れて返したり、全体で共有しながら価値付けたりしていることが成果の要因として考えられる。
- 大問3三(1)や3二(2)の類型分析から、目的に応じて着目すべき事柄を理解し、**必要な文や言葉に着目して文章を正確に読み取ったり、複数の情報を関連付けて読み取ったりすることに引き続き弱さがみられる**。

課題の解決に向けて

問題番号

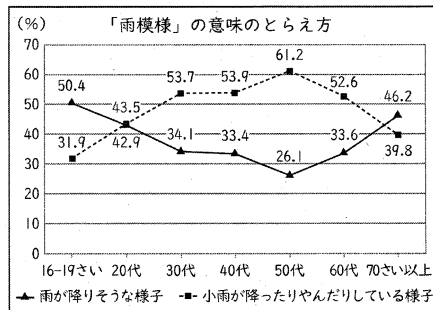
大問3三(1)

大問3三(1)は、【資料4】を読み取って感じたことと関連する内容を、【資料1】の文章中の指定されたものから選ぶ問題である。

誤答分析

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。
だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりに思うよ。」 ※下線筆者

田中さん



(文化庁「令和4年度国語に関する世論調査」による。)

【資料4】

(文化庁国語課「文化庁国語課の勘違いしやすい日本語」による。)

【資料1】

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなったり、使い方が変わってたりする場合は少なくありません。
ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方が正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。
言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤を軽々しく決めることはできないと考え、その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。
④「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

選択番号	選択肢	反応率 (%)
1	この本を読むとお気づきになると思います	4.7
2	「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。	35.3
3	コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。	40.6
4	「言葉は生きている」とも言われます。	18.3

正答

考察

言葉や言葉の働きなどに着目して、事実と感想、意見などを区別したり複数の情報を関連付けて読み取ったりすることに課題

田中さんのコメントのうち、赤線部からは、「～困ると思うよ。」に着目して【資料4】を読んだ田中さんの感想を捉え、青線部からは、「だから」や「と書かれているとおりに」に着目して、田中さんが【資料4】を読んだあと、あらためて【資料1】を読み、【資料1】の筆者の考えに同意していることを捉えることが必要である。

言葉や言葉の働きなどに着目して、事実と感想、意見などを区別したり複数の情報を関連付けて読み取ったりする力が十分でないと考えられる。



小学校 算数

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立）	全国（公立）	対象児童数	高知県（公立）	全国（公立）
	174	18,265		4,611	936,399

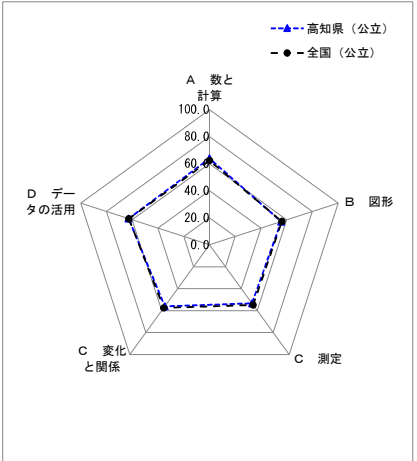
分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
			高知県（公立）	全国（公立）
全体		16	58.5	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	63.9	62.3
	B 図形	4	55.7	56.2
	C 測定	2	53.3	54.8
	C 変化と関係	3	56.1	57.5
	D データの活用	5	62.8	62.6
評価の観点	知識・技能	9	66.6	65.5
	思考・判断・表現	7	48.2	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0	0.0	0.0
問題形式	選択式	6	66.8	67.2
	短答式	6	65.5	64.0
	記述式	4	35.7	34.9

（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点	問題形式			正答率（％）			無解答率（％）	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用		選択式	短答式	記述式	高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差（公立）	高知県（公立）	全国（公立）
1（1）	2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2022年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○	○			80.9	78.7	2.2	0.1	0.4
1（2）	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) 5(1) ア(ア) イ(ア)	○		○		33.0	31.0	2.0	0.4	0.9
1（3）	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶことができるかどうかをみる	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○	○			71.8	71.6	0.2	1.7	3.5
1（4）	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) イ(ア)					○		○		74.5	74.5	0.0	1.5	2.6
2（1）	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○		○		57.2	58.3	-1.1	0.7	1.2
2（2）	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○		○		49.4	50.2	-0.8	0.4	0.7
2（3）	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる		4(5) ア(ア)				○		○		78.7	79.3	-0.6	0.5	1.0
2（4）	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる					5(3) ア(ア) ※	○		○		37.5	37.0	0.5	1.2	2.7
3（1）	0.4＋0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) ア(ア) ア(ウ)					○		○		76.1	74.1	2.0	1.2	2.8
3（2）	3/4＋2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(5) ア(ア) イ(ア)					○		○		23.9	23.0	0.9	9.8	15.7
3（3）	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) ア(イ)					○		○		40.8	35.0	5.8	3.8	7.8
3（4）	1/2＋1/3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(5) ア(ア)					○		○		86.3	81.3	5.0	2.1	4.1
4（1）	新品のハンドソーブが空になるまでに何ブッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○	○		80.0	82.8	-2.8	1.4	2.6
4（2）	使いかけのハンドソーブがあと何ブッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) ア(ア)	3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)		○		○		48.3	48.7	-0.4	2.0	3.4
4（3）	はかりが示された場で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) ア(イ)			○		○		58.2	60.9	-2.7	3.1	4.2
4（4）	10％増量したためかえ用のハンドソーブの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10％増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる					5(3) イ(ア)	○		○		39.9	40.9	-1.0	3.1	4.1

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



今回の調査からわかったこと

- 今年度は「知識・技能」の観点で、全国平均正答率を上回り成果がみられている。特に、棒グラフから読み取る、角の大きさについて分かることを選ぶ、分母が異なる分数のたし算などの正答率が高く、**基礎的な内容の定着が図られている**ことがうかがえる。
- 大問3（2）の分母が異なる分数のたし算について単位分数を見だし説明する問題の正答率は23.9%と低く、**計算の意味の理解には課題**がみられている。

課題の解決に向けて

調査問題分析

問題番号
大問3（2）



計算の仕方について**統合的・発展的に考察することを大切にしたい**というメッセージが込められています！

(1)



0.4は0.1の4個分、0.3は0.1の3個分です。
0.1を①として下の図のように表します。



0.4 + 0.3の計算は、0.1をもとにすると、4 + 3を使って考えることができます。

(2)

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

本間における**統合的に考察する**とは

小数と分数の計算を別々のものと捉えるのではなく、基にする数のいくつ分かで考えると、どちらも同じように整数の計算を使って考えることができると捉えること。

分数のたし算も**基にする数に着目すると、整数の計算**を使って考えることができるよ。

小数のたし算も、分数のたし算も考え方は同じだね。



本間における**発展的に考察する**とは

小数や分数の計算で使った考え方は、分母が異なる分数の計算でも使えるのではないかなどと、考察の範囲を広げていくこと。

分母が違う分数の計算も、**基にする数に着目すると整数の計算**を使って考えることができそうだね。



育成したい子どもの姿



「小数のたし算も分数のたし算も、基にする数に着目してそのいくつ分かで考えれば、整数のたし算で考えることができる！ひき算でも同じように考えられるかな・・・」などと、共通点を見いだしたり、既習を基に新たな問題を解決しようとしたりする姿。

誤答分析

問題番号

大問3(2)

【正答例】 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ のもとにする数を同じにすると、その数は $\frac{1}{12}$ になります。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の9個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の8個分です。

解答類型6

反応率(%)

通分について書いているもの

29.9

(例) $\frac{3}{4} + \frac{2}{3} = \frac{9}{12} + \frac{8}{12} = \frac{17}{12}$

全体の3割が通分について記述している。しかし、共通する単位分数が $\frac{1}{12}$ であること、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が共通する単位分数のいくつ分かは記述できていない。

考察

計算の過程を振り返って、やっていることの意味を確認したり、統合的・発展的に考えたりすることが課題

分母が異なる分数の計算では、形式的に通分をして計算するのではなく、通分することによって、単位分数の個数に着目して考えることが大切である。計算の過程を振り返り、なぜ通分をするのかについて理解を深めたり、単位分数がそろえば、小数や分母が同じ分数と同じように整数の計算でできると統合的に考察したりする力の育成にはいたっていないと考えられる。

授業改善のポイント



★問題解決の過程を振り返る場面を設定する。

- ①何に着目して、どのように考えたのか明らかにできるようにする。
- ②みんなに分かりやすいよう図を用いた説明を促す。
- ③これまでの学習との共通点について考察できるようにする。

$$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$$

分母が同じなら計算できるんだけどな。

$$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$$

通分したら計算できました。



どうして通分したのか、図を使って詳しく説明できますか。

①②

$\frac{1}{2}$ と $\frac{1}{3}$ のままでは、基にする分数が違うから、計算ができません。
でも通分すれば、どちらの分数も基にする分数が $\frac{1}{6}$ にそろいます。

$\frac{1}{6}$ を基にすると、3 + 2を使って考えることができます。



$\frac{1}{6}$ の3個分

$\frac{1}{6}$ の2個分



分母が同じ分数と同じように考えることはできましたか。

③

通分をして基にする分数をそろえたら、分母が同じ分数と同じように整数の計算でできました。

同じ考え方でひき算もできそうです。

本問のように、基にする数に着目し、考察することができる場面は下学年でも設定できる。

低学年のときから、「同じところはないかな。」「前に学習したことが使えないかな。」「他にも同じように考えられることはないかな。」などと教師が問いかけ、徐々に子どもたち自身が、統合的・発展的に考察できるように積み上げていくことが大切である。そうすることで、学んだことと学んだことがつながり、より深く意味を理解することができる。

低学年からの
系統的な指導が
大切です！

例えば、第2学年
300 + 200
100をもとにすると3 + 2
で考えることができる！



小学校 理科

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

※ただし、4月17日に調査を実施していない学校については、4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

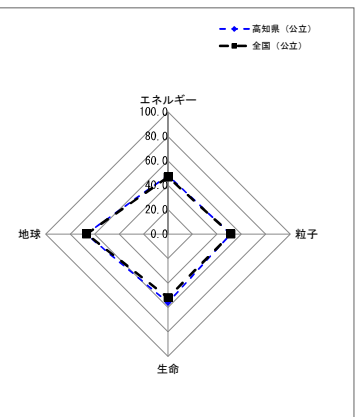
集計結果

対象学校数	高知県（公立）	全国（公立）	対象児童数	高知県（公立）	全国（公立）
	174	18,150		4,614	936,576

分類		区分	対象問題数 (問)	正答率(%)	
				高知県（公立）	全国（公立）
全体			17	58.6	57.1
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.0	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	51.3	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	56.0	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	67.1	66.7
		評価の観点		知識・技能	8
		思考・判断・表現	9	60.4	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	11	54.7	54.7
		短答式	4	73.0	69.7
		記述式	2	51.6	45.2

（注）「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域		評価の観点	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)	
			A区分	B区分		選択式	短答式	記述式	高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差（公立）	高知県（公立）	全国（公立）
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域									
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる		4B (3)ア (4)※	○		○		77.9	79.5	-1.6	1.5	2.5
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをままとめわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる		4B (3)ア (4)※	○			○	67.0	60.5	6.5	4.9	8.5
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中々らしいの粒の赤玉土に水がしみ込み時間を予想し、予想した理由とともに書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる		4B (3)ア (4)※	○		○		77.2	77.8	-0.6	0.5	0.9
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3A (5)ア (7)※	3A (4)ア (7)※	○		○		9.9	10.6	-0.7	0.2	0.6
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの回路的に人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3A (5)ア (7)※		○		○		42.1	42.9	-0.8	0.3	0.6
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5A (3)ア (4)※		○		○		81.9	78.0	3.9	1.2	2.7
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4A (3)ア (7)※		○		○		58.0	55.1	2.9	0.3	0.8
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて遊び、受粉について書く	ヘチマの花のつくり方や受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる		5B (1)ア (4)※	○		○		79.9	70.7	9.2	0.4	1.5
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる		5B (1)ア (4)※	○		○		43.2	45.6	-2.4	0.4	0.8
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる		5B (1)ア (4)※	○		○		64.6	62.0	2.6	0.6	1.7
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気持ちに基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる		5B (1)ア (4)※	○			○	36.2	29.9	6.3	6.1	11.4
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導きたす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる		4A (2)ア (7)※	○		○		52.6	50.6	2.0	3.1	6.1
4 (2)イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4A (2)ア (7)※	4B (4)ア (7)※	○		○		62.4	64.2	-1.8	0.6	1.3
4 (2)エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4A (2)ア (7)※	4B (4)ア (7)※	○		○		57.4	57.5	-0.1	0.7	1.5
4 (3)カ	海にある水がとけることについて、水が氷になる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷になる温度を根拠に、オホーツク海の水の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる		4A (2)ア (7)※	○		○		59.3	59.8	-0.5	0.9	2.3
4 (3)キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる		4B (3)ア (7)※	○		○		61.0	60.9	0.1	1.0	2.4
4 (3)ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる		4A (2)ア (7)※	○		○		66.5	65.6	0.9	0.9	2.5

今回の調査からわかったこと

- 大問1（2）や大問3（3）など、思考力・判断力・表現力等を問う問題において全国平均正答率を上回っており、過去の類似問題と比較しても高い結果となった。
このことから、**条件を制御した解決の方法を発想したり、より妥当な考えをつくりだすなどの問題解決の力が養われてきている**と考えられる。
- 大問3（4）の誤答分析から、自然事象に対する気づきや疑問からどうしたら確かめられるのかといった**解決の見通しをもった理科の「問題」へとつなげていくことに弱さ**がみられる。

課題の解決に向けて

問題番号

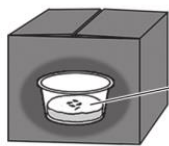
大問3（4）

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、①水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、②つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



しめさせた
だっし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

- ②水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。③レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



- (4)③てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

調査問題分析

レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について表現できるかどうかを問うものである。**てるみさんが持っているだろう見通しを解釈し、問題を表現することが必要である。**

- ①【結果】 発芽に必要な水、空気、温度を与えても発芽しなかった。

- ②【気づき】 レタスの種子が発芽するには、必要な条件が他にもあるかもしれない。

見通し

条件の中の日光や肥料が関係しているのかな



- ③【調べてみたいこと】 行った実験の条件から1つ選んで調べてみたい。

見通し

1つずつ調べないと確かめられないな



- 【問題】 【正答例】レタスの種子が発芽するために、日光は必要なのだろうか。

誤答分析

県：平均正答率**36.2%**（無解答率**6.1%**）
【全国：平均正答率**29.9%**（無解答率**11.4%**）】

（正答の条件）

以下のA、Bの全てを記述している。

A：〈条件〉から日光または肥料について、1つ選んで記述しているもの

B：レタスの発芽に関し、疑問を示す趣旨で記述しているもの

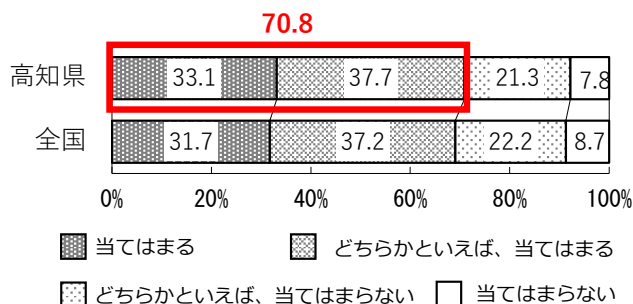
条件Aの記述ができていなかった。（57.6%）
誤答の中には、以下のような解答がみられた。

誤答	要因
水、空気、温度の他に必要な条件は何だろう	疑問で終わってしまい、 発芽の要因に着目できていない 。上記の②部分の見通しを持っていない。
日光や肥料は必要なのだろうか	発芽に関する要因に着目することができているが 、上記の③の部分の 1つずつ調べるという見通し を持っていない。

質問調査との関連

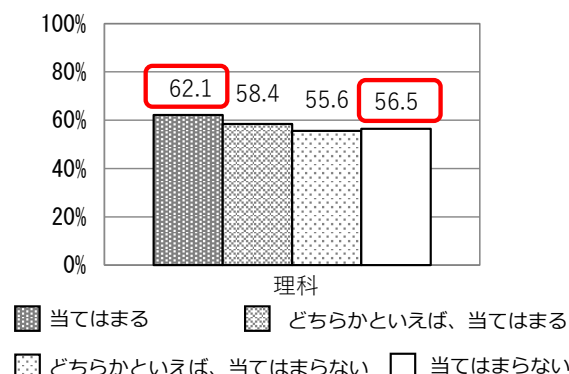
児童質問調査

自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか。



児童質問調査×正答率クロス集計

選択肢ごとの理科の平均正答率



この質問項目に肯定的に回答したグループの割合は、70.8%であり、全国より1.9ポイント高かった。また、この質問項目に「当てはまる」と回答した児童の方が「当てはまらない」と回答した児童より理科の平均正答率が高い傾向が見られた。

引き続き、自然事象に対する気付きから問題を設定する過程の指導の充実を図ることが重要である。

考察

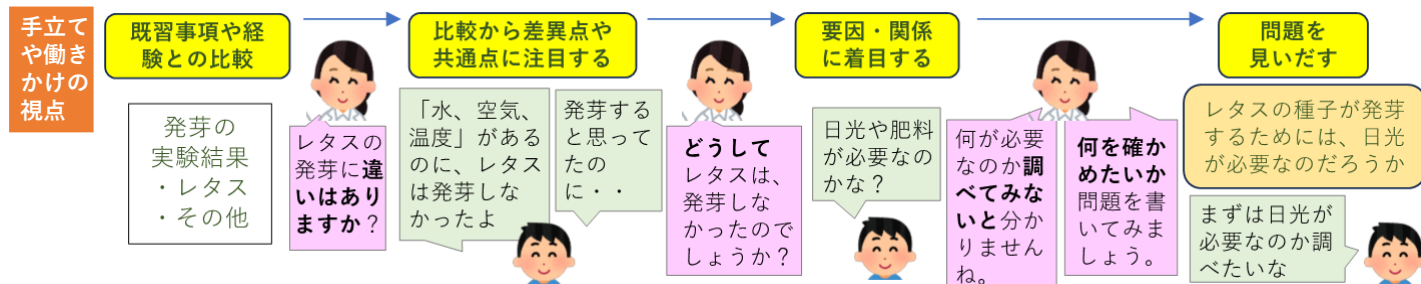
気付きや疑問を理科の「問題」へとつなげることに弱さがみられる

誤答分析では、多くの児童がレタスの発芽に関する疑問が書けていたことから、授業の中でも児童は自然事象に対する気付きや疑問を持つことができていると考えられる。

しかし、誤答の中には「疑問」をそのまま理科の「問題」として捉えている解答も見られた。授業の中で、児童の気付きを整理し、差異点や共通点を捉えて、「何に関係しているのか」「どうすればそれが確かめられるのか」といった解決の見通しをもった理科の「問題」にしていくことが十分にできていないのではないかと考えられる。

授業改善のポイント

気づきや疑問を理科の「問題」へとつなげるために、子どもたちが「ここに着目して考えていけば解決できそう」という見通しを持つことができるような手立てや働きかけをしましょう。



「令和7年度【小学校理科】報告書」大問3 授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25psci_idea_03.pdf

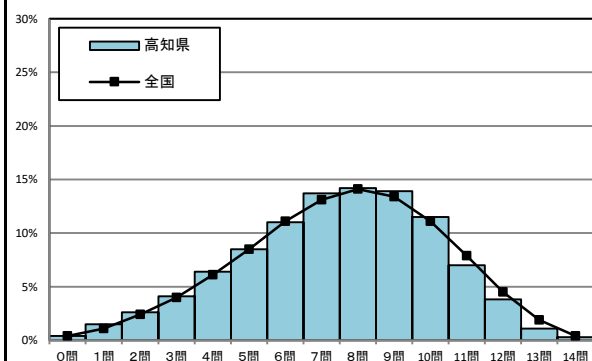


各教科に関する学力の状況

〔中学校国語〕

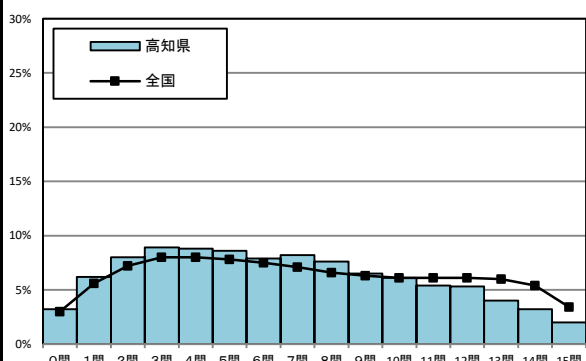
正答数分布の状況

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,699	7.4	53.1	8.0	2.7
全国	870,560	7.6	54.3	8.0	2.7

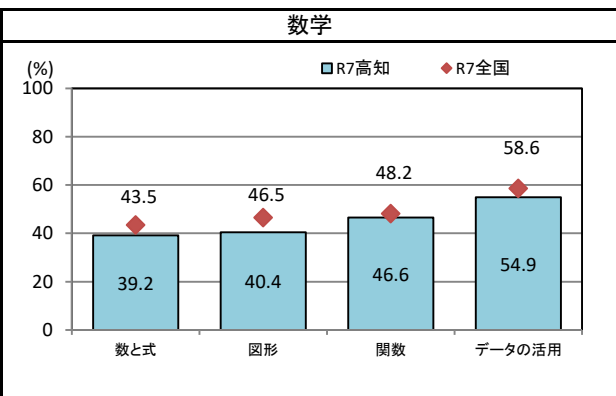
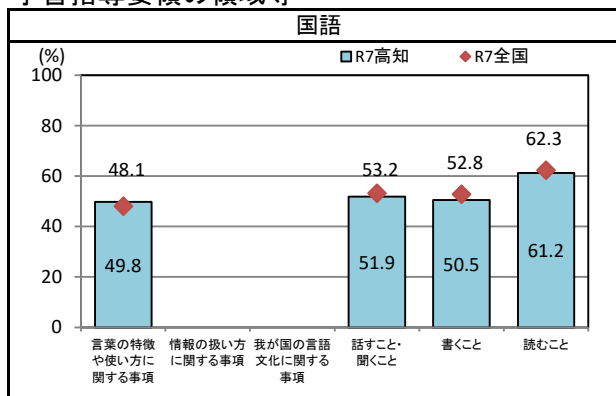


〔中学校数学〕

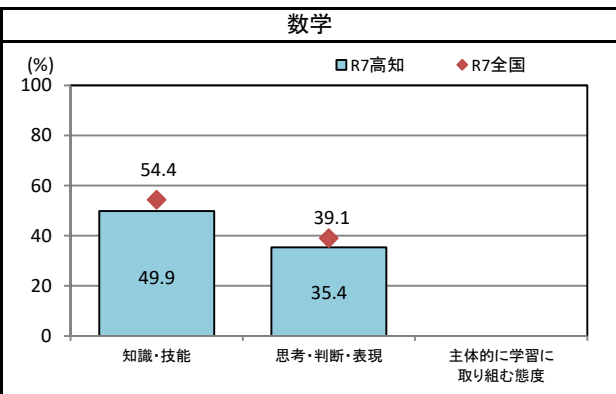
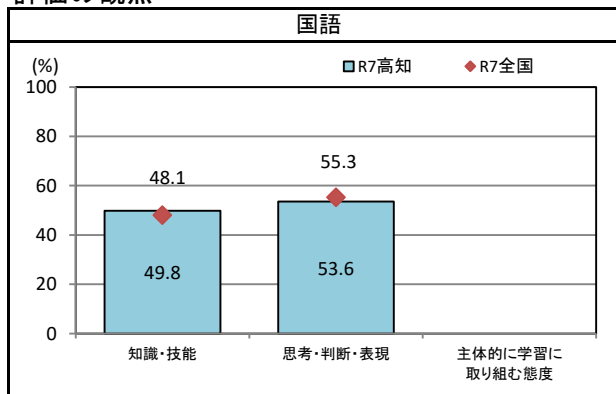
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,702	6.6	44.1	6.0	4.0
全国	871,097	7.2	48.3	7.0	4.2



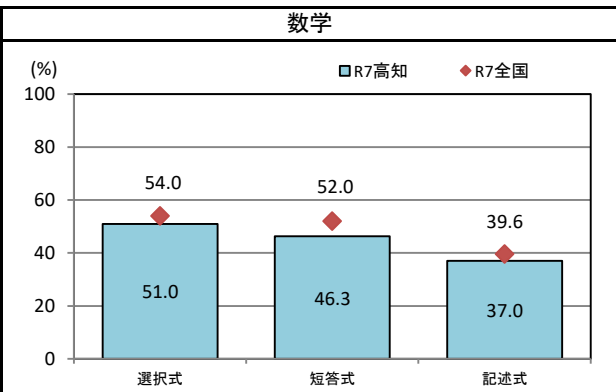
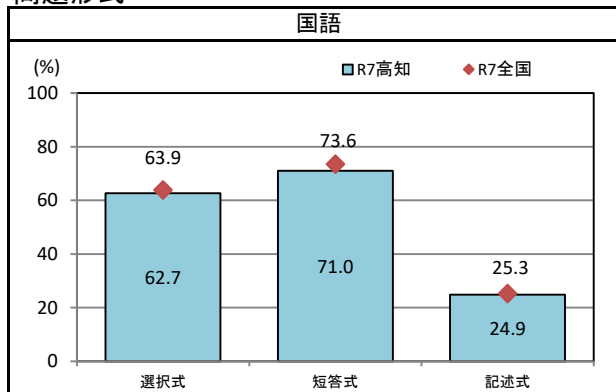
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式



中学校 国語

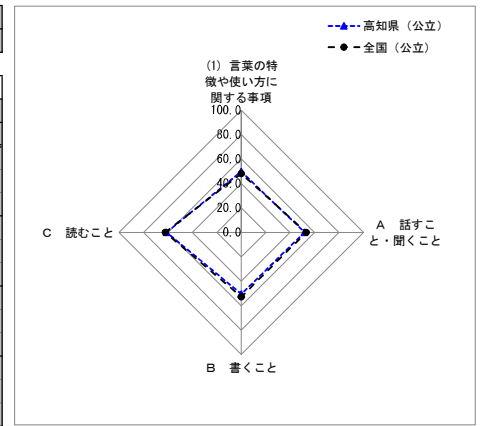
・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		高知県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	高知県（公立）	全国（公立）
		94	9, 244		3, 699	870, 560

分類		区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
				高知県（公立）	全国（公立）
全体			14	53. 1	54. 3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	49. 8	48. 1
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	51. 9	53. 2
		B 書くこと	5	50. 5	52. 8
		C 読むこと	3	61. 2	62. 3
評価の観点	知識・技能	2	49. 8	48. 1	
	思考・判断・表現	12	53. 6	55. 3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	62. 7	63. 9	
	短答式	2	71. 0	73. 6	
	記述式	4	24. 9	25. 3	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと							
1一	変換した漢字として適切なものを選択する (かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2ウ						○	○	30.3	35.2	-4.9	0.1	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる					1ア		○	○	81.8	82.5	-0.7	0.1	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる					1イ		○	○	59.6	63.3	-3.7	0.4	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる					1ウ		○	○	33.4	31.0	2.4	1.6	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる					2ウ		○	○	34.6	38.1	-3.5	0.2	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる					1ウ		○	○	76.6	77.9	-1.3	0.2	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる					2イ		○	○	71.5	73.4	-1.9	0.8	0.6
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる					2ウ		○	○	24.9	23.2	1.7	3.6	4.0
3一	物語の始めに問かけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○	○	78.0	80.0	-2.0	0.5	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方捉えることができるかどうかをみる					2ア		○	○	89.9	89.9	0.0	3.8	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる	1ウ						○	○	69.3	61.0	8.3	0.8	0.8
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○	○	15.8	17.1	-1.3	23.5	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ		○	○	52.0	57.3	-5.3	37.9	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ		○	○	25.4	30.1	-4.7	19.9	19.1

今回の調査からわかったこと

- 大問 3 一の正答率は、令和 5 年度の類似問題と比較して26.7ポイント高い結果となった。
このことは、文学的な文章において表現の工夫とその効果を検討する場面を設定したことや、表現の効果について各領域で意図的に学習した成果だと考えられる。
- 大問 3 四や 1 四、2 四の誤答から、記述問題に弱さがみられる。**自分の考えを根拠とともに表すこと、特にその根拠が明確なものになっていないことが課題**だと考えられる。

課題の解決に向けて

誤答分析

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨
記述 読むこと	大問 3 四	最初の話には書かれている場面が二つ目の話には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、 根拠を明確にして考えることができるかどうか をみる

【正答の条件】

- ① **着目した物語の展開**についての効果を書く。
- ② ①の理由について、**物語の内容を取り上げて書く**。

正答率 15.8% 無答率 23.5% 「その他」の解答 24.1%

誤答例	分析
①②「一 榎木の実」に榎木の木が出てきて、「二 釣の話」に胡桃の木が出てくることにより、読者に豊かな自然を思い浮かべさせる効果がある。	②物語の内容を取り上げてはいるが、① 着目している展開を踏まえて書くことができていない。 36.6%

物語の展開をふまえて効果を書いたつもりだけど、どこがいけないだろう。

終末部分が異なるという展開の効果について、**物語のどこの記述をふまえているのか根拠が明確になっているかな。**

四「二」で囲まれてた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のあとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語でどのような効果があると考えますか。あなたの考えてその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

共通した課題がみられた問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	誤答の傾向
記述 書くこと	大問 1 四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の 工夫 について伝える文章を書く	自分の 考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く ことができるかどうかをみる	正答率 33.4% 「その他」の解答 56.2% ※正答の条件は次のページ
記述 話すこと・聞くこと	大問 2 四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの 工夫 について、どのような助言をするか自分の考えを書く	資料や機器を用いた 話し方の工夫を捉える ことができるかどうかをみる	正答率 24.9% 根拠が明確でない解答 22.6% 「その他」の解答 45.9%

各問題「その他」の解答（正答の条件いずれも満たさないものや解答が途中で終わっているもの等）が一定の割合みられている。

課題の要因分析

領域を問わず、・文章や話の、内容や表現のどこが工夫されているか（どこを工夫しているか）
・その工夫による効果はどのようなことか
について、【読むこと】文章の記述に基づく根拠を明確にして考えを表現すること／【話すこと・聞くこと】【書くこと】自分の考えを伝えるために根拠を明確にして考えを表現することに課題がみられている。

1 四 正答の条件

- ・根拠を明確にしている
- ・接続する語句や指示する語句を用いて考えと根拠を適切に関係付けている



【生徒のつまずきとして考えられる要因】

- ・それまでの内容や構成（根拠）を適切に踏まえ、文章や話の工夫や効果（考え）を表現している。
- ・根拠が自分の考えを支えるものになっていない。
- ・自分の考えと根拠を適切に関係付けるための接続する語句や指示する語句を使っていない。
- ・表現したことを見直すことが不足している。

考察

考えを支えるための適切な情報が入った根拠を示すことに課題

根拠は、収集した情報をそのまま示すのではなく、考えを支えるための適切な情報を示すことが必要である。誤答分析から、文章の記述や目的に基づいていること、根拠と考えは適切に結び付いていること、根拠と考えが適切な接続する語句や指示する語句で関係付いていること等の観点を満たした根拠を示すことが不十分であると考えられる。

適切な情報が入った根拠を示すためには以下の指導を充実させることが大切である。

- ・考えだけでなく、考えを支える根拠について表現させる場面を設定する。
- ・情報と情報（ここでは「考え」と「根拠」）とを、比較・分類・関係付けし、接続する語句や指示する語句を用いて整理する場面を設定する。
- ・特に推敲、共有の場面で、表現を見直すための観点を考えさせる。
- ・「考えを支えるための根拠が明確に示されているか」ということに対して、単元の途中で適なフィードバックを行う。

授業改善のポイント

根拠として、考えを支える適切な情報が入っているか **観点**
に沿って吟味する場面を設定

〈指導者〉
・どのような観
点で吟味するの
か検討させる。
・観点に沿った
吟味となっているか確認する。
・吟味したことを自分の表現に生かしているか確認する。



根拠としての
情報が十分か

内容だけ書いて構成
について触れないのは
根拠として不足して
いるんじゃないのかな。

文章のどの部分を
根拠としているか

「兄弟は目的を達成でき
ていない」は記述にない
よね。自分の憶測が入っ
ていないかな。



考えと根拠が
結び付いているか

「釣りでも失敗を繰り返す」
という根拠は「読者の意表を
突く効果」という考えを支え
るものになっているのかな。

接続する語句
や指示する
語句で考えと
根拠が関係付
いているか

根拠の後に「だ
から」をつけると
スムーズに考えと
つながるかな。



中学校 数学

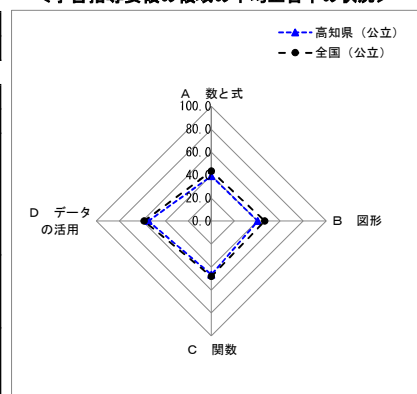
・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	高知県（公立）	全国（公立）
	94	9,243		3,702	871,097

分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（%）	
			高知県（公立）	全国（公立）
全体		15	44.1	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	39.2	43.5
	B 図形	4	40.4	46.5
	C 関数	3	46.6	48.2
	D データの活用	3	54.9	58.6
評価の観点	知識・技能	9	49.9	54.4
	思考・判断・表現	6	35.4	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	51.0	54.0
	短答式	7	46.3	52.0
	記述式	5	37.0	39.6

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	¹⁽¹⁾ ア(ア)				○			○			27.3	31.8	-4.5	0.4	0.7
2	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	¹⁽²⁾ ア(エ)				○				○		44.9	51.9	-7.0	6.6	7.3
3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる		²⁽¹⁾ ア(イ)			○				○		50.6	58.1	-7.5	1.8	2.0
4	一次関数y=6x+5について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数y=ax+bについて、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる			²⁽¹⁾ ア(ア)		○				○		28.4	34.7	-6.3	6.2	8.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる				¹⁽¹⁾ ア(ア)	○				○		39.6	42.5	-2.9	6.3	9.4
6(1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場合において、反例をあげることができるかどうかをみる	²⁽¹⁾ ア(イ)				○				○		61.6	62.8	-1.2	4.2	4.6
6(2)	3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	²⁽¹⁾ イ(イ)				○				○		20.2	25.7	-5.5	19.1	24.9
6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	²⁽¹⁾ イ(イ)				○				○		42.1	45.2	-3.1	17.9	20.2
7(1)	Aの手元のカードが3枚とも「ゲー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる				²⁽²⁾ ア(ア)	○				○		71.4	77.4	-6.0	2.6	3.2
7(2)	Aの手元のカードが「ゲー」、「チョキ」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「ゲー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				²⁽²⁾ イ(イ)	○				○		53.8	55.9	-2.1	1.5	2.2
8(1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる				¹⁽¹⁾ ア(ウ)	○			○			70.7	71.9	-1.2	1.5	2.3
8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				¹⁽¹⁾ イ(イ)	○				○		40.6	38.0	2.6	27.1	35.0
9(1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる		²⁽²⁾ ア(イ)			○			○			55.1	58.5	-3.4	1.1	1.1
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる		²⁽²⁾ イ(ア)			○				○		27.9	36.3	-8.4	5.8	7.2
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる		²⁽²⁾ イ(イ)			○				○		28.0	33.2	-5.2	28.2	31.5

今回の調査からわかったこと

- 生徒質問調査(58)「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」と肯定的に答えた生徒の割合が全国と比較して9.9ポイント高い。また、設問別無解答率は、全国と比較すると少ない。このことから、数学の授業で、生徒に説明する活動を意識して設定していると考えられる。
- 条件を変えた場合について、元の証明を振り返り、証明の一部を書き直すことについて、課題がみられる。

課題の解決に向けて

問題番号

大問 9 (2)

調査問題分析

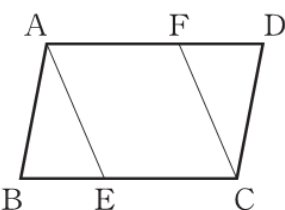
証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、元の証明（証明1）を評価・改善することにより、条件を変えた場合の証明を書き直すことができるかどうかをみている。

元の証明（証明1）を図2と関連付けて読みながら、点E、Fのとり位置が変わっても、関係が変わらず成り立つものに着目し、証明を書き直す必要がある部分を考え、数学的に表現できる力が求められる。

- 9 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。

このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

図1



証明1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $AF \parallel EC$ ①
 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ②
 仮定より、
 $DF = BE$ ③
 ②、③より、
 $AD - DF = BC - BE$ ④
 ④より、
 $AF = EC$ ⑤
 ①、⑤より、
 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形AECFは平行四辺形である。

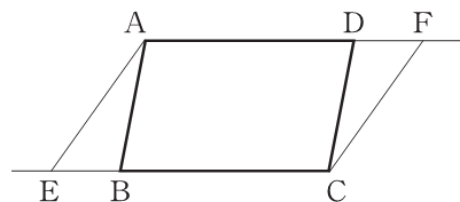
証明1と図2を関連付けて、証明を読み、変わらない関係と変わる関係について確認する

平行の位置関係
変わらない

$AD = BC$ 、 $DF = BE$
変わらない

- (2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとって、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでのの中から1つ選び、正しく書き直しなさい。

図2



ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD \parallel BC$ よって、 $AF \parallel EC$①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$②
ウ	仮定より、 $DF = BE$③
エ	②、③より、 $AD - DF = BC - BE$④
オ	④より、 $AF = EC$⑤

①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形AECFは平行四辺形である。

正答 エ
 (例) ②、③より
 $AD + DF = BC + BE$
④

誤答分析

証明を書き直すことが必要な部分を正しく選択できた割合（解答類型1～3）は、47.7%であった。このことから、元の証明を読んで、条件を変えた場合について、書き直す部分を捉えることができなかったと考えられる。

また、書き直すことが必要な部分を捉えることができている、辺の長さの関係を正しく表現することができていない誤答もみられる。

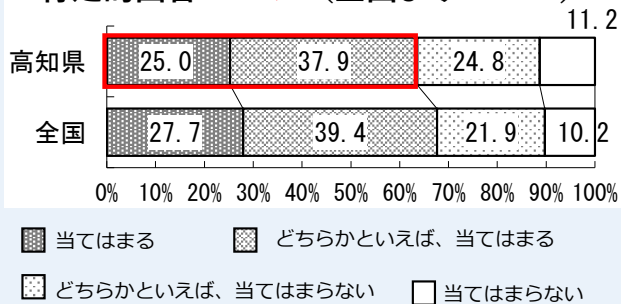
質問調査との関連

(59)文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか

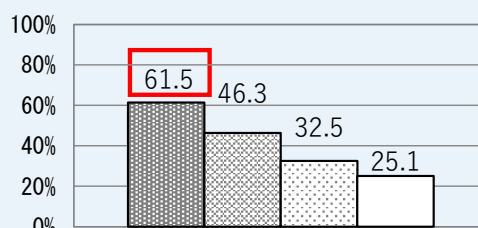
生徒質問調査

生徒質問調査×正答率クロス集計

肯定的回答 62.9%（全国より－4.2P）



「文字式・証明を読んで理解できること」について肯定的に回答した生徒の割合が全国より下回っている。



「文字式・証明を読んで理解できること」について当てはまると肯定的に回答した生徒ほど数学の正答率が高い。

考察

証明を図と関連付けながら読み、書かれていることを理解できるよう、指導の充実を図ることが重要

証明で書かれている推論の過程を図と関連付けて読み、条件を変えても変わらない関係と変わる関係を見だし、元の証明を評価・改善する活動が不十分であると考えられる。

証明を読むことを通して、証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなどして、論理的に考察し表現する力を高めていくことにつながる。

授業改善のポイント

証明の指導では、必要以上に証明の書き方に拘ることをせず、まずは証明を読むことを通じて証明の根拠の用い方を明らかにしつつ、生徒が自分なりに工夫して証明し、よりよいものに高めていくことが大切である。

そのためには、誤答を活用して証明を吟味したり、他者と自分の証明の書き方の違いを比較・検討したりするなど、証明を読む活動を充実させることが重要である。生徒が証明の推論の過程を読むなかで、書かれていることを理解できているか、個々の状況を見取り、生徒が数学的に表現できるようにしていくことが必要である。



中学校 理科

・以下の集計値／グラフは、4月14日から4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

【1】 平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数	標準偏差
高知県 (公立)	3,738	2.8 / 6	1.3
全国 (公立)	864,634	2.9 / 6	1.4

【2】～【9】 平均正答数集計値

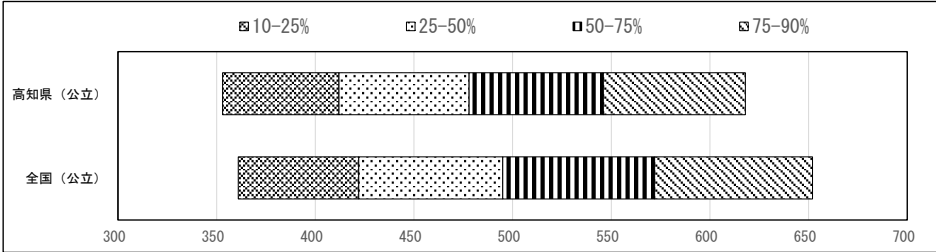
	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
高知県 (公立)	1.9 / 4	1.8 / 4	2.1 / 4	2.2 / 4
全国 (公立)	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4

「空欄」…割り当てなし

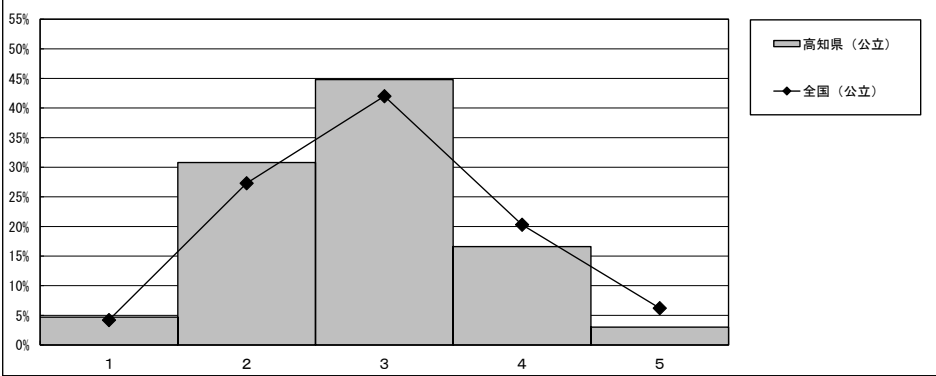
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
高知県 (公立)	483	108.0	353	412	478	546	618
全国 (公立)	503	124.0	361	422	495	572	652

IRTスコア分布グラフ (パーセンタイル値：10%、25%、50%、75%、90%)



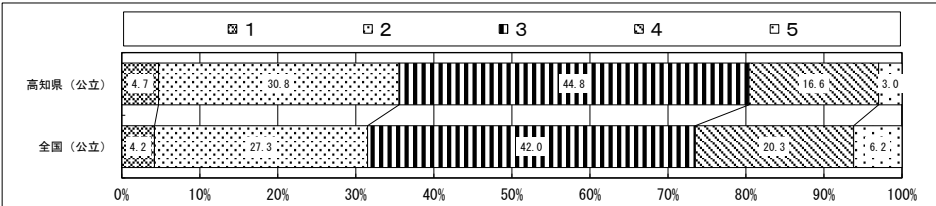
IRTバンド分布グラフ (横軸：IRTバンド 縦軸：割合)



IRTバンド集計値

IRTバンド	生徒数	割合 (%)	
	高知県 (公立)	高知県 (公立)	全国 (公立)
5	113	3.0	6.2
4	621	16.6	20.3
3	1,675	44.8	42.0
2	1,153	30.8	27.3
1	176	4.7	4.2

IRTバンド分布比較



・以下の集計値は、4月14日から4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

問題別集計結果（公開問題）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		問題の難易度	対象生徒数	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県（公立）	全国（公立）	高知県（公立）	全国（公立）		高知県（公立）	全国（公立）
1（1）	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ②			○			○			47.3	51.9	0.2	0.2	5	3,738	864,634
1（2）	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる		(2) (7) ②			○			○		51.4	46.2	5.6	8.0	5	3,738	864,634
1（3）	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる			(2) (7) ②	○			○			32.8	36.2	0.5	0.6	5	3,738	864,634
1（4）	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(3) (9) ②		○			○			27.2	29.7	0.2	0.2	5	3,738	864,634
1（5）	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる		(4) (7) ④		○				○		36.0	44.9	7.4	8.5	4	3,738	864,634
1（6）	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなただけの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる		(2) (7) ②		○			○			82.9	79.4	7.5	9.9	3	3,738	864,634
2（1）	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる		(1) (7) ②		○				○		11.7	14.0	0.8	1.9	5	631	203,127
2（2）	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめるを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる		(1) (7) ②		○			○			91.4	94.6	0.0	0.1	2	631	203,127
3（1）	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) ②			○			○			31.8	34.9	0.3	0.2	5	1,071	220,884
3（2）	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ④			○			○			81.8	85.2	0.4	0.1	2	1,071	220,884
4（1）	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大きさを判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	(2) (7) ②			○			○			41.8	50.4	0.0	0.1	4	779	220,314
4（2）	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) ④			○			○			93.5	92.8	0.0	0.1	2	779	220,314
5（1）	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る	(2) (7) ②			○			○			90.7	93.0	0.0	0.1	1	1,257	220,309
5（2）	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているかを判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	(4) (4) ②			○				○		28.6	35.6	3.6	4.6	4	1,257	220,309
6（1）	牧野富太郎の「ジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ②			○			○			61.9	65.9	0.3	0.2	4	1,071	220,884
6（2）	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	(3) (4) ②			○			○			35.7	41.9	0.2	0.1	4	1,071	220,884
7（1）	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の両方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	(3) (9) ②			○			○			33.9	34.8	0.1	0.2	5	779	220,314
7（2）	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ②	(3) (9) ②		○			○			50.1	51.6	0.1	0.2	5	779	220,314
8（1）	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断し、青色の地層を移動させて、地層を調べたときに両が分かればよい」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその堆積物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる	(2) (4) ②			○			○			43.6	42.2	2.4	3.2	4	1,257	220,309
8（2）	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様々なボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる	(2) (4) ②			○			○			13.8	18.1	0.3	1.1	5	1,257	220,309
9（1）	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (7) ②			○			○			30.6	31.8	0.5	0.3	5	631	203,127
9（2）	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ②			○			○			57.4	58.1	0.5	0.3	4	631	203,127

今回の調査からわかったこと

- 大問 1 (6) の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っており、過去の類似問題と比較しても高い結果となった。このことから、探究を通して自分の考えが変化したことを表現するなど、**自分自身の学びを振り返る**ことができている生徒が多いと考えられる。
- 大問 2 (1) の誤答分析から、**身に付けた知識・技能を活用して**、考察をより確かなものにするための適切な実験の計画をすることに弱さがみられた。

課題の解決に向けて

問題番号

大問 2 (1)

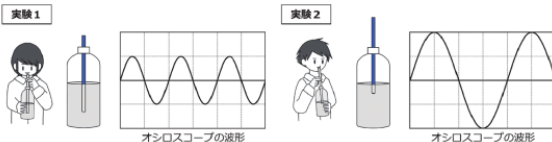
理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。(1),(2)の各問に答えなさい。

ストローを上下に動かしたら音の高さが変わりました。

ストローの中に息を吹き込むと音が出るのは、ストローの中の空気が振動したからだよね。

音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。

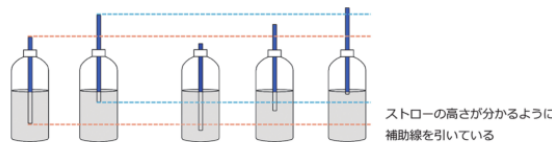
【実験】「ストロー内の空気が入る長さ（ の部分）」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



右のように【考察】しました。

【考察】「ストロー内の空気が入る長さ（ の部分）」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。

【考察】をより確かなものにするためには、あと1つ実験を行うとよいですね。次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいかな。



(1)

下線部について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか、1つ選びなさい。

上のア、イ、ウのどの実験を選んでてもかまいません。

また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいのか、振動数という言葉を使って書きなさい。

調査問題分析

【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみている。

ストローを上下に動かしたら音の高さが変わるという現象から、**知識を活用して**、実験の結果を整理し、表に示した**関係を捉える**必要がある。

	ストロー内の空気が入る長さ	振動数	音の高さ
実験 1	短い	多い	高い
実験 2	長い	少ない	低い

【考察】ストローが長くなるにつれて、音はだんだん低くなる

【考察】をより確かなものにするためには、実験を追加して**規則性を見いだす**必要がある。ア～ウのどれかを選択し、**振動数が実験 1、2 と比べてどうなるかを適切に説明**することが求められている。

【正答例】（イを選択した場合）
実験 1 より振動数が少なく、実験 2 より振動数が多いことが分かればよい。

誤答分析

県：平均正答率**11.7%**（無解答**0.8%**）
【全国：平均正答率**14.0%**（無解答**1.9%**）】

誤答	反応率
振動数の比較はできているが、規則性を見いだすための説明が不十分	0.9%
振動数という言葉は使えているが、振動数を比較した適切な説明ができていない	58.5%
振動数という言葉を使えていない	28.3%

誤答分析から8割以上の生徒が、振動数を比較した適切な説明ができていなかった。音の高さは振動数に関係するという**単なる知識ではなく、知識を活用して「音の高さ」、「ストロー内の空気が入る長さ」、「振動数」の関係を捉える**ことができていなかった。

その他の調査問題や質問調査との関連

大問1 (6)

探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現させる問題

県：平均正答率**82.9%**（無解答率**7.5%**）
【全国：平均正答率79.4%（無解答率9.9%）】

（正答の解答類型）

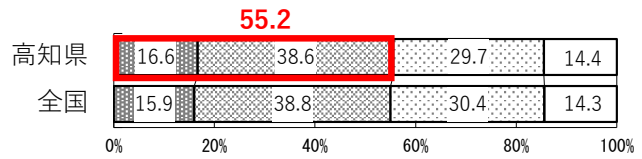
- | | |
|---------------------------|-------|
| ① 疑問に感じたことや調べてみたいことを記述 | 18.4% |
| ② はじめの考えから考えが変化したことを記述 | 42.6% |
| ③ 身近な生活とのつながりについて感じたことを記述 | 12.9% |
| ④ ①～③以外の視点で振り返りを記述 | 3.2% |

多くの生徒が調査問題に示された視点を参考に振り返りを記述することができていた。しかし、探究の過程を振り返り、**新たな疑問を見だしたり、身近な生活とつなげて考えたりして、振り返りを記述している生徒は少なかった。**

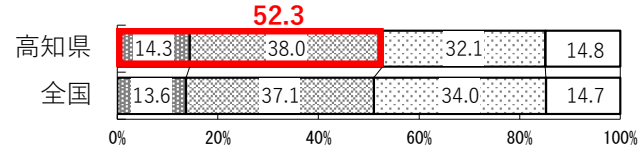
質問調査

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☐ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

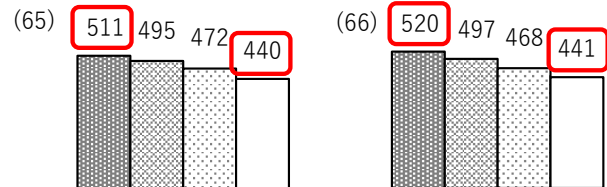
(65) 理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか。



(66) 理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか。



クロス集計 選択肢ごとの理科の平均正答率



理科の授業で学習した知識や考え方を普段の生活の中で活用できていると考えている生徒は5割ほどいる。また、そのように考える生徒ほど理科のスコアが高い傾向がみられる。

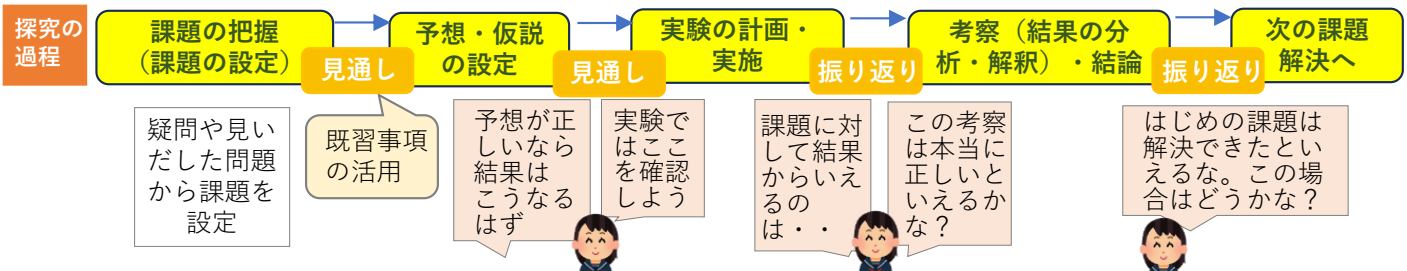
考察

身に付けた知識や技能を活用して課題を解決することに弱さがみられる

- ・問題番号2(1)の結果から、音の高さは振動数に関係するという**知識の定着と活用**に課題がみられた。
- ・知識の定着・活用を図るためには、探究の過程において、**目的意識をもって観察・実験を行うことが大切である**。実験の結果から**何が分かればよいのかを明確にもつ**ことで、「音の高さ」「振動数」「音の波形のグラフ」を関係づけて捉え、規則性を見いだすことができ、概念的な理解につながると考えられる。
- ・探究の過程において、**見通しをもって課題を自分たちで解決していく**ことで、身に付けた知識や考え方を、普段の生活や他の場面につなげることができると考えられる。

授業改善のポイント

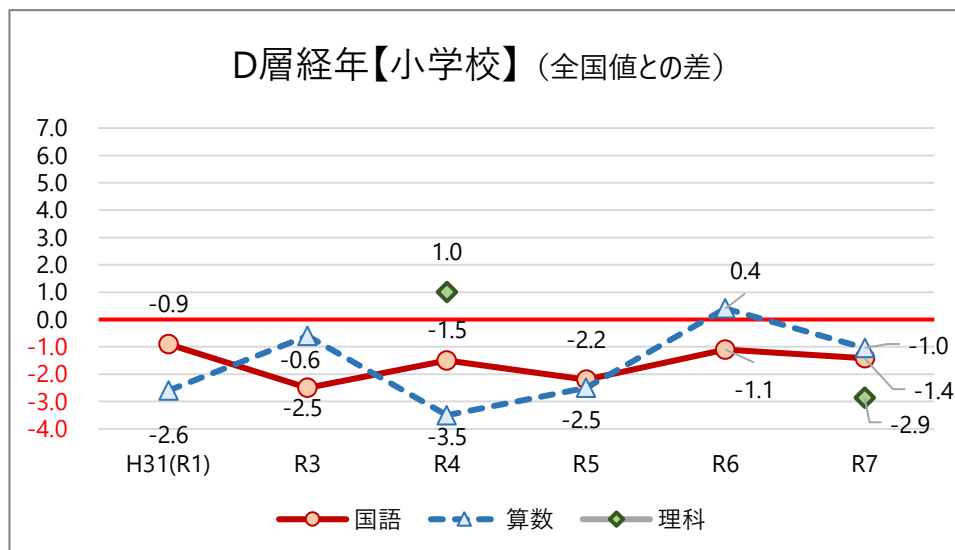
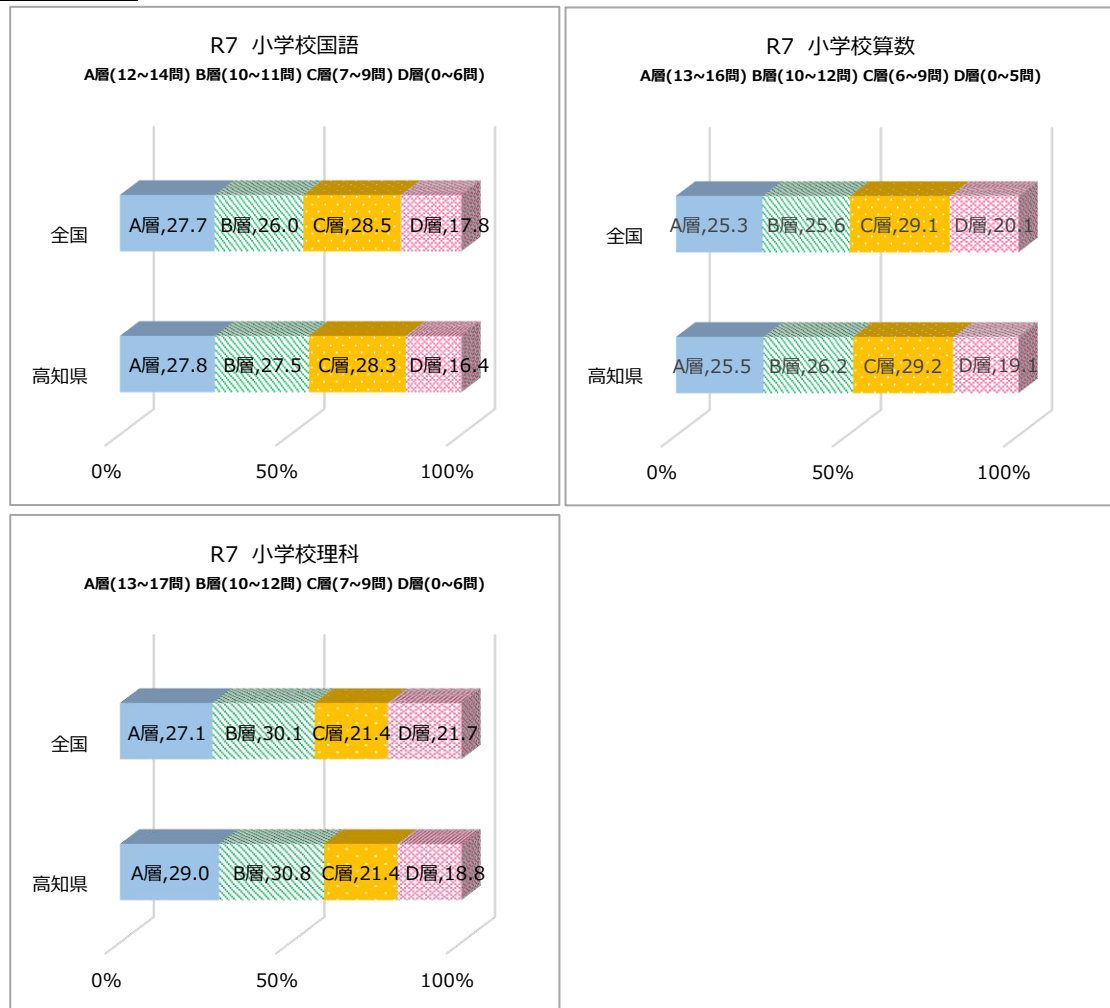
探究の過程において、生徒が**見通しをもって学習を進めたり、振り返って自分の活動を見直したり**できるように、それぞれの探究の過程が、つながりをもって進めていけるような問いかけや声かけの工夫していきましょう。



正答数ごとの層分布

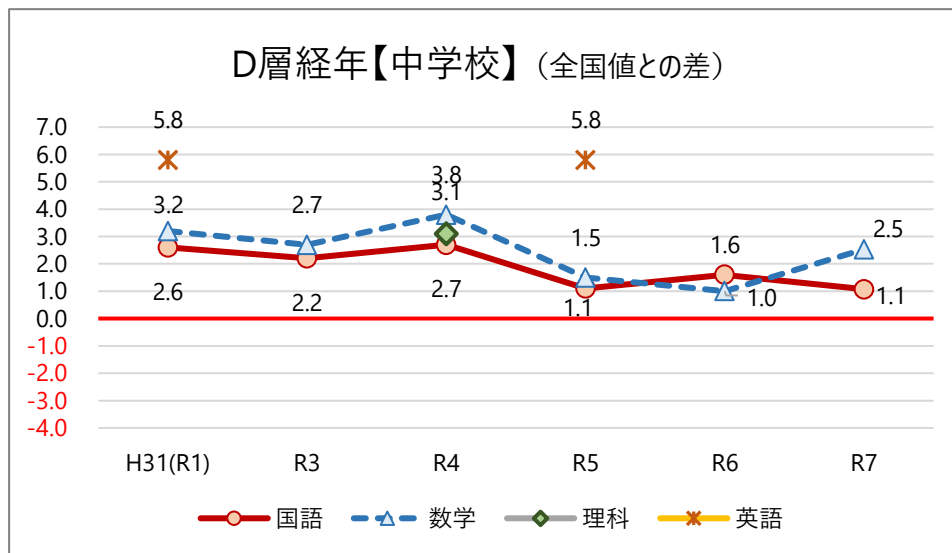
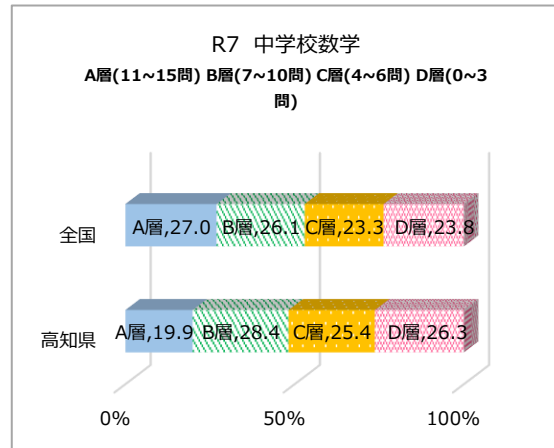
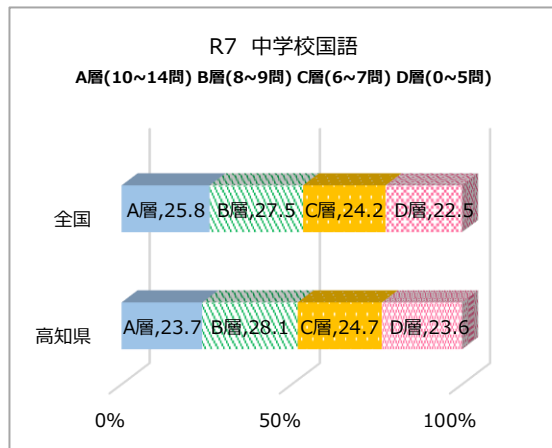
全国学力・学習状況調査 正答数分布 4 階層

小学校



全国学力・学習状況調査 正答数分布 4 階層

中学校



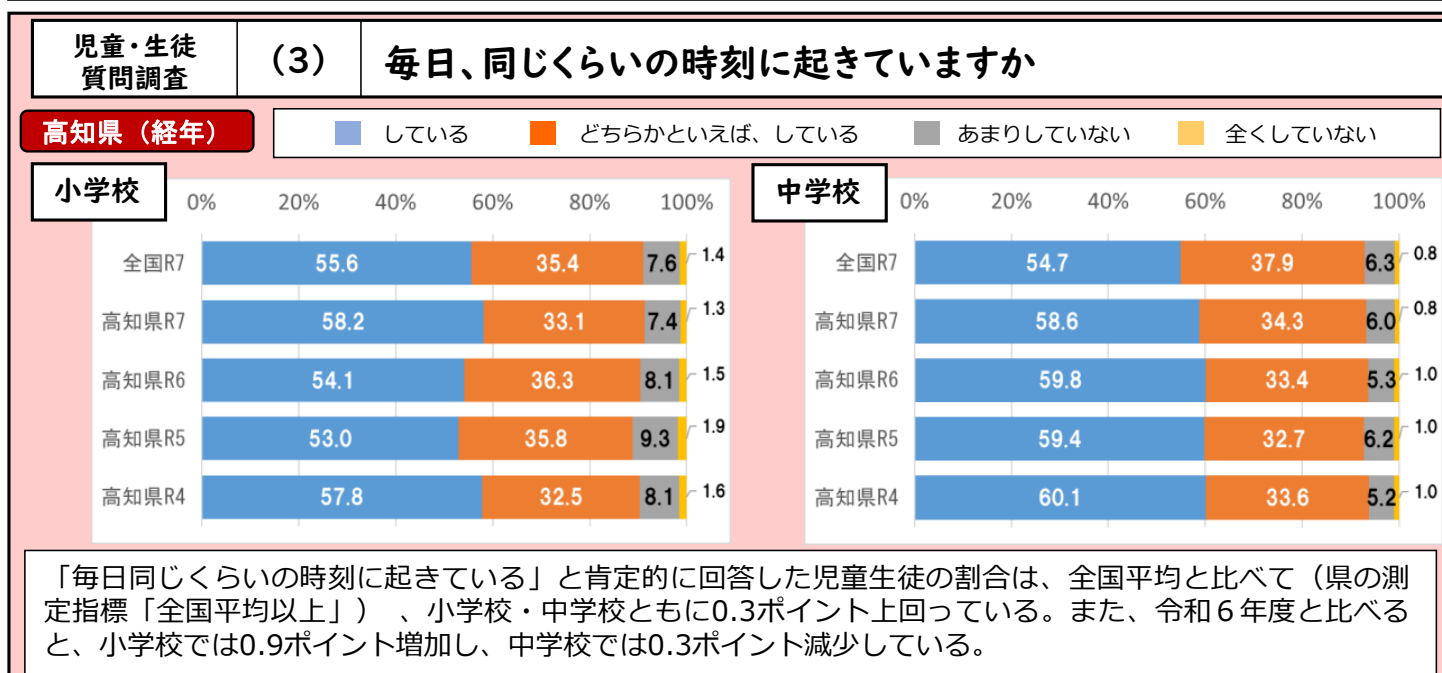
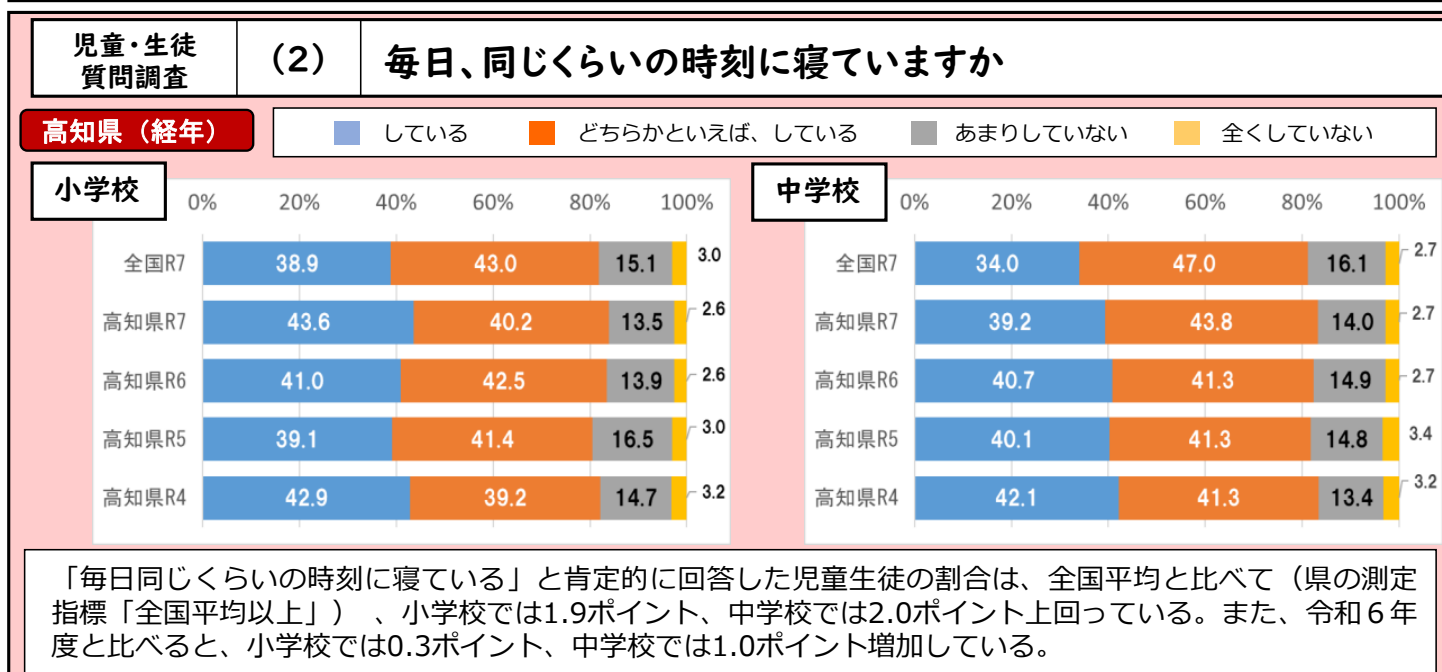
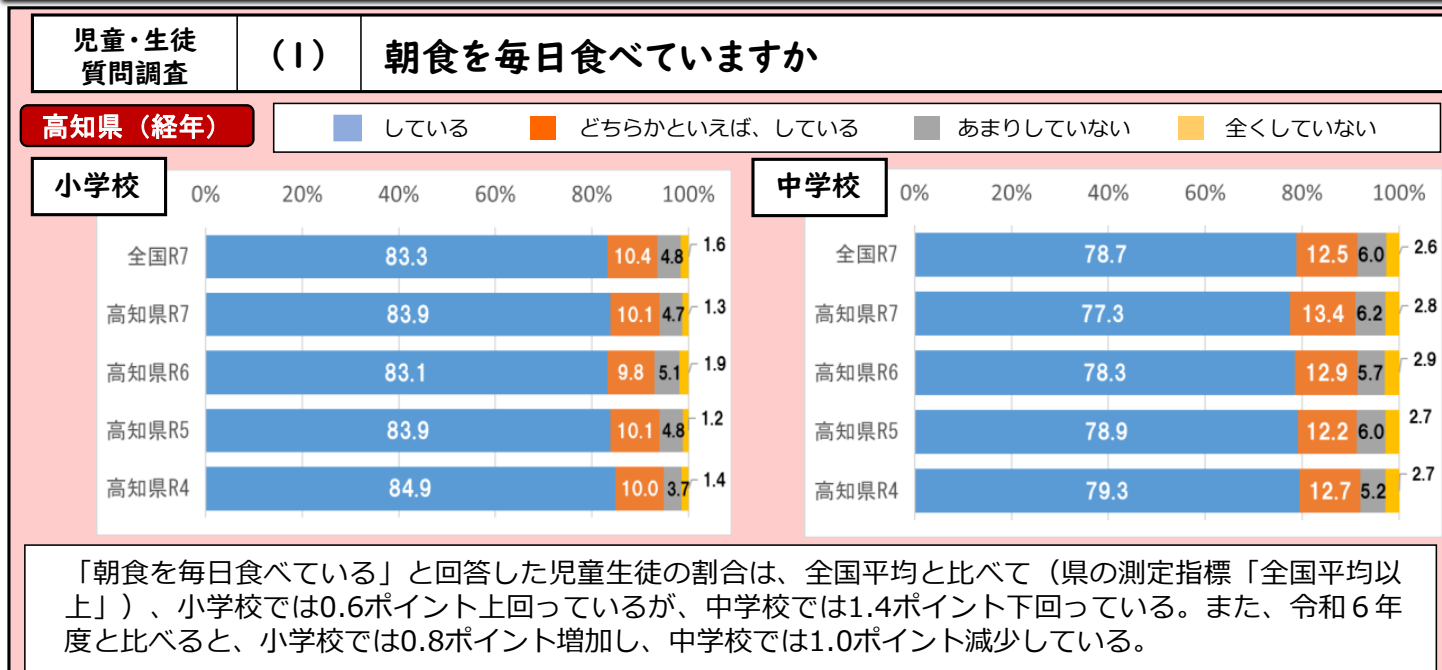
質問調査

第 3 期教育等の振興に関する施策の大綱

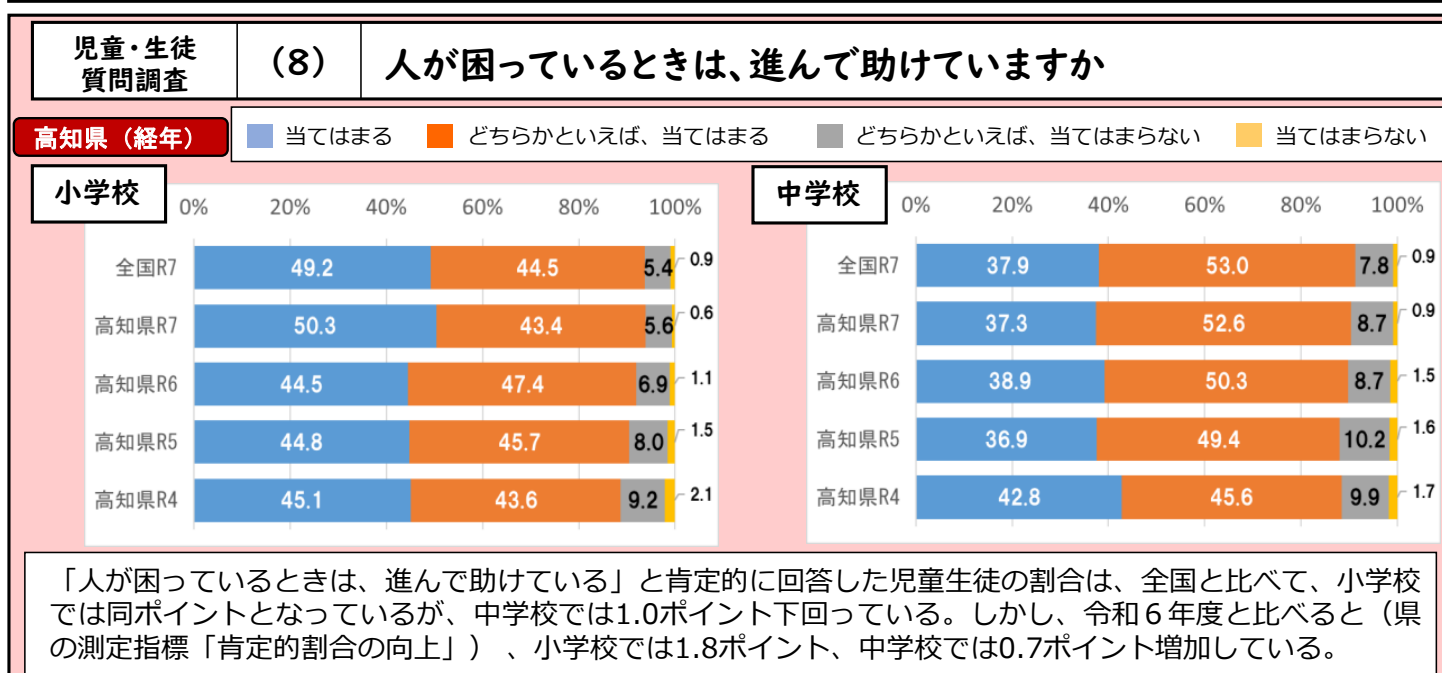
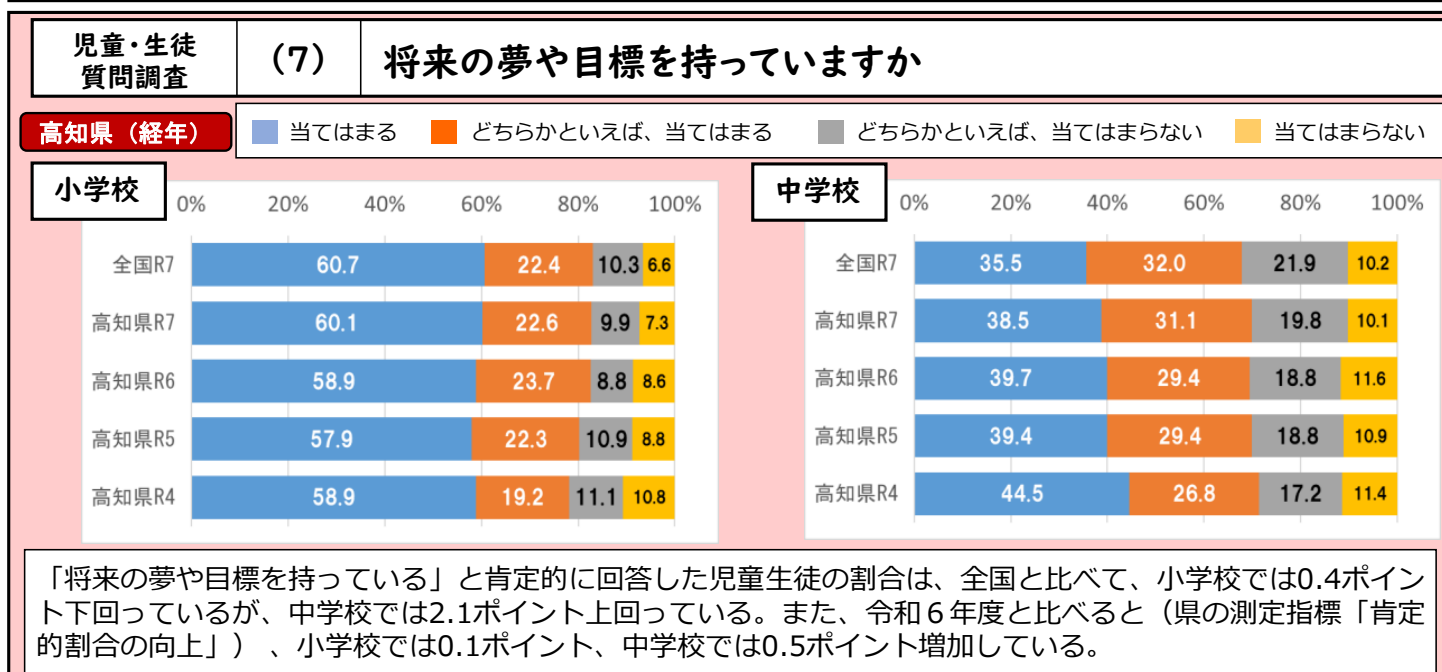
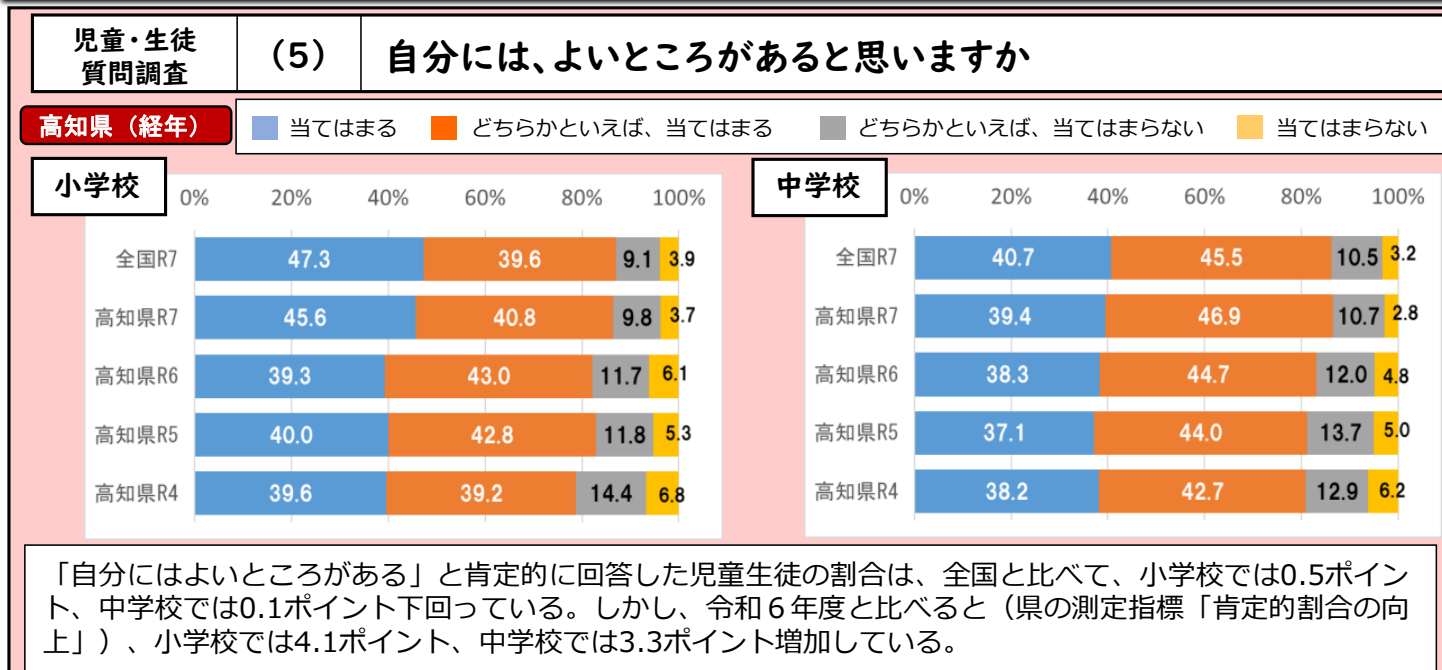
第 4 期高知県教育振興基本計画

基本目標に関する質問項目

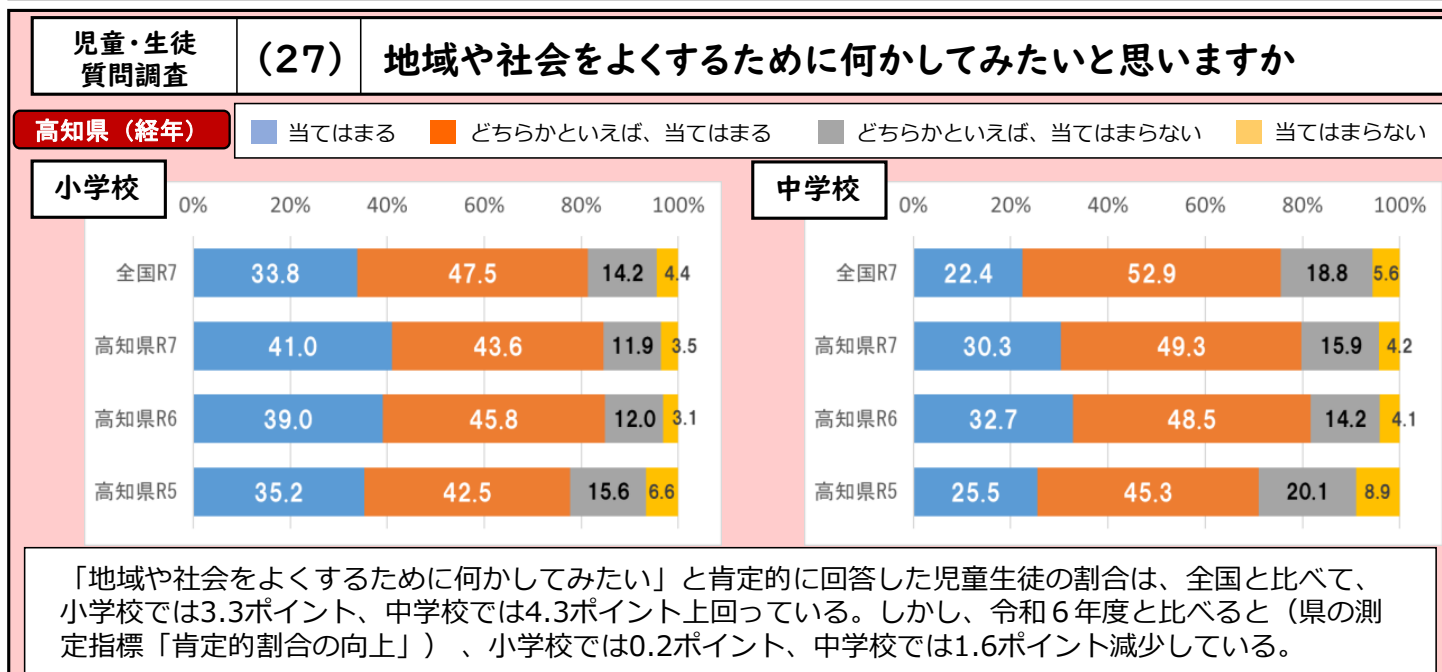
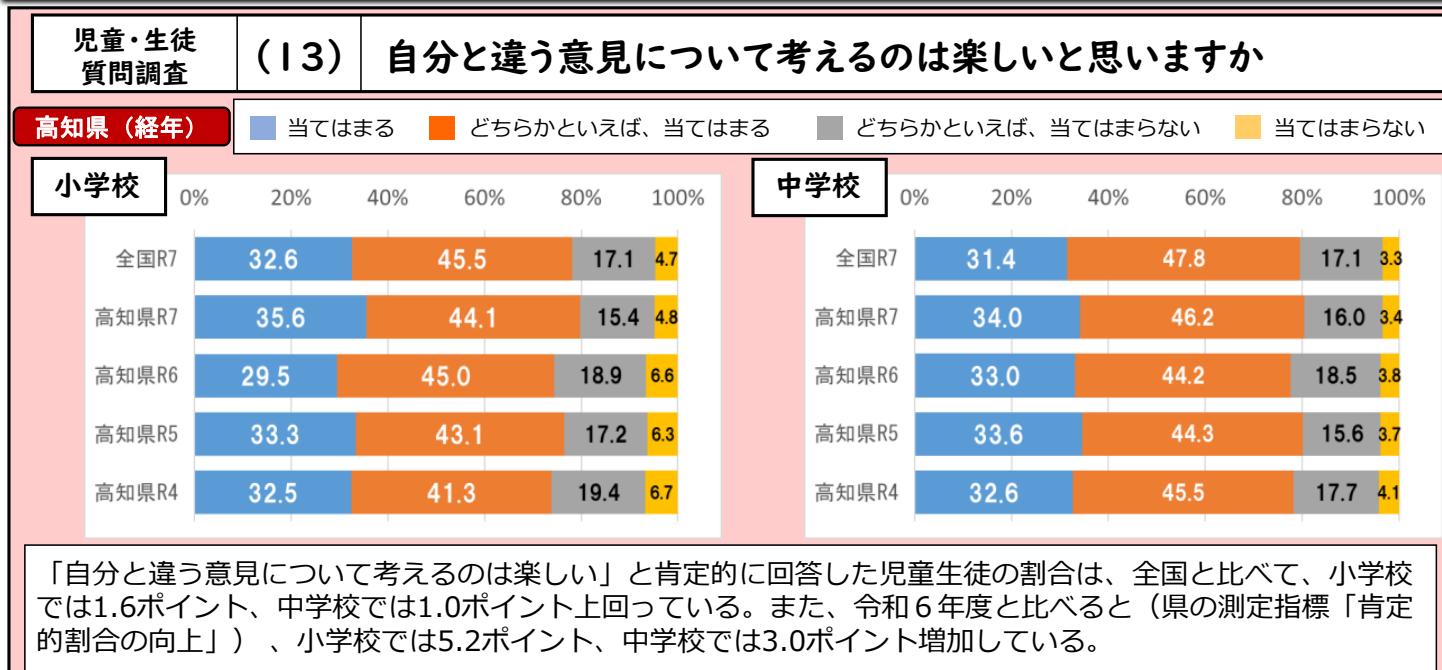
第3期大綱・第4期基本計画の基本目標2の測定指標



第3期大綱・第4期基本計画の基本目標3の測定指標



第3期大綱・第4期基本計画の基本目標3の測定指標



質問調査

学校運営に関する状況

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

学習習慣

ICT を活用した学習状況

学校運営に関する状況

学校
質問調査

(15)

児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

高知県（経年）

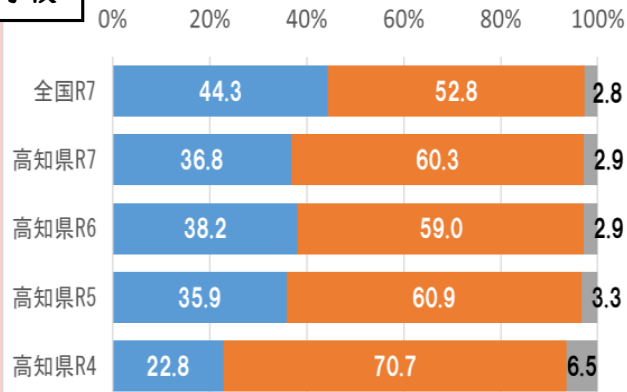
よくしている

どちらかといえば、している

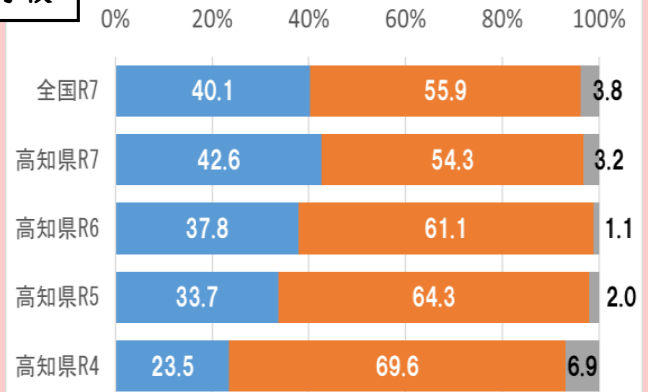
あまりしていない

全くしていない

小学校



中学校



「PDCAを確立している」と肯定的に回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校では同ポイント、中学校では0.9ポイント上回っている。しかし、令和6年度と比べると、小学校では0.1ポイント、中学校では2.0ポイント減少している。

学校
質問調査

(22)

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

高知県（経年）

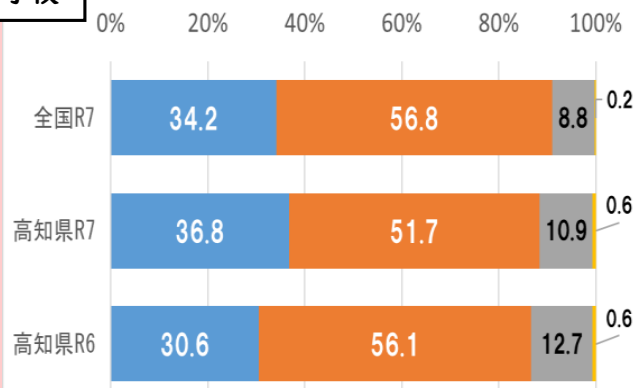
そう思う

どちらかといえば、そう思う

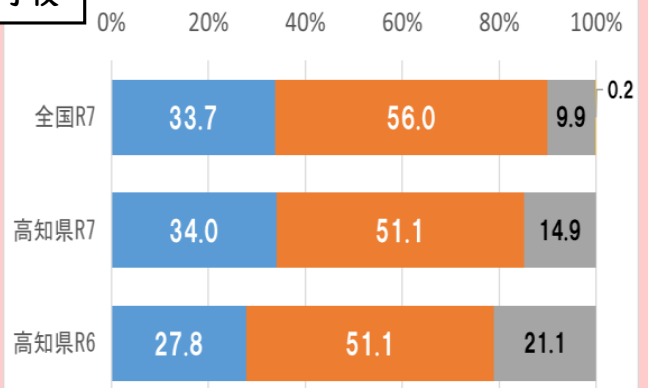
どちらかといえば、そう思わない

そう思わない

小学校



中学校



「新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教員が多い」と肯定的に回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校は2.5ポイント、中学校では4.6ポイント下回っている。しかし、令和6年度と比べると、小学校では1.8ポイント、中学校では、6.2ポイント増加している。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

児童・生徒
質問調査

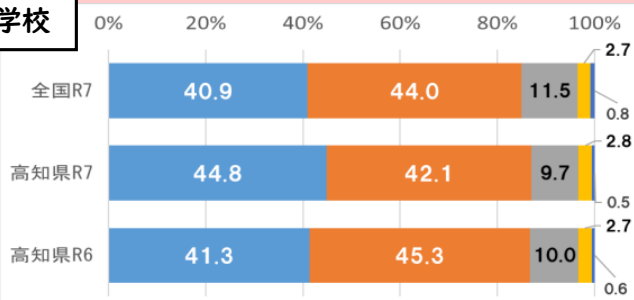
(35)

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

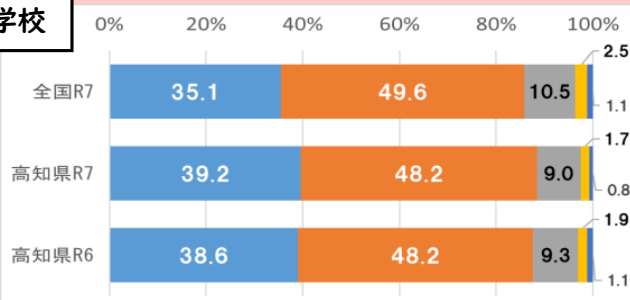
高知県（経年）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない ■ 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない

小学校



中学校



「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校では2.0ポイント、中学校では2.7ポイント上回っている。また、令和6年度と比べて、小学校では0.3ポイント、中学校では0.6ポイント増加している。

児童・生徒
質問調査

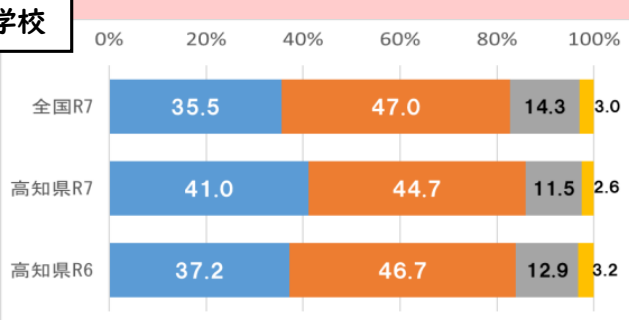
(37)

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるとおもいますか

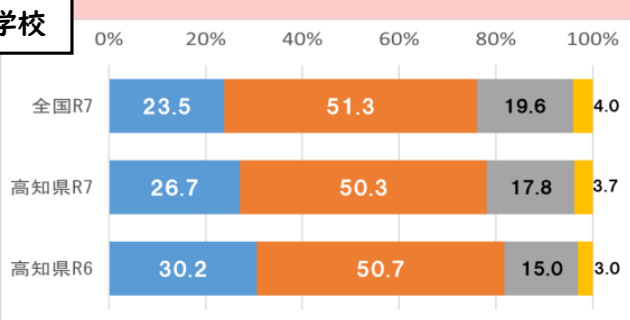
高知県（経年）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校



「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校では3.2ポイント、中学校では2.2ポイント上回っている。また、令和6年度と比べて、小学校では1.8ポイント増加し、中学校では3.9ポイント減少している。

児童・生徒
質問調査

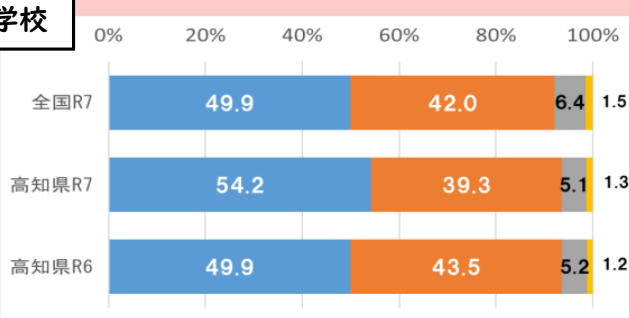
(39)

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

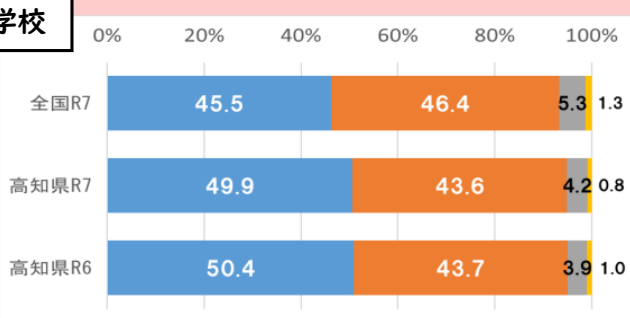
高知県（経年）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校



「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校、中学校ともに1.6ポイント上回っている。また、令和6年度と比べて、小学校では0.1ポイント増加し、中学校では0.6ポイント減少している。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

児童・生徒
質問調査

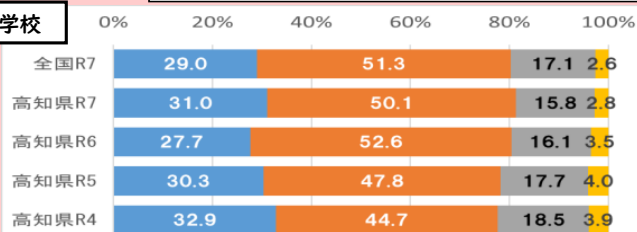
(32)

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

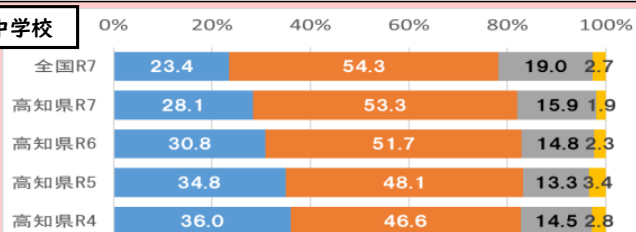
高知県（経年）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

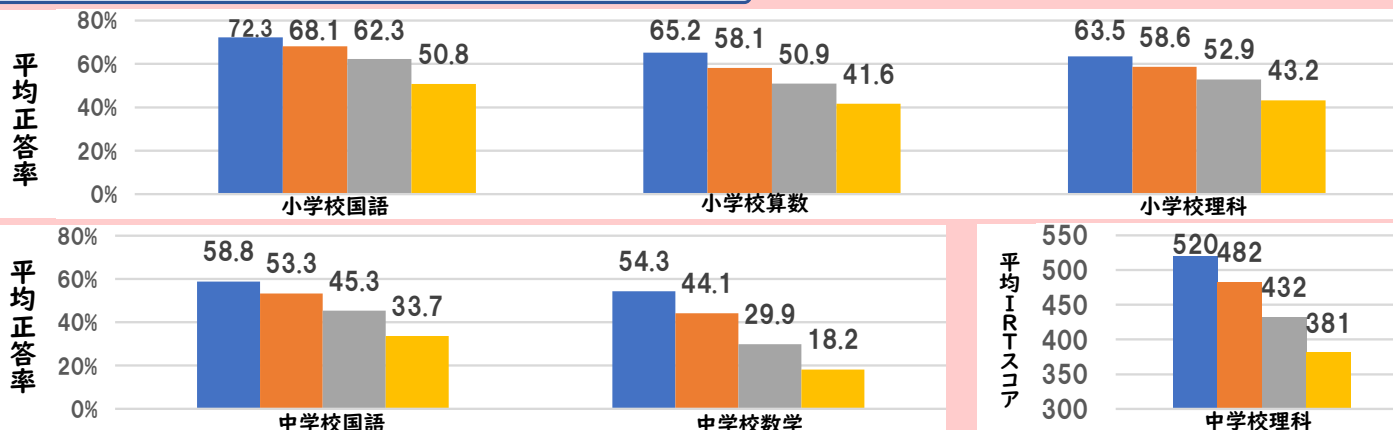
小学校



中学校



令和7年度調査結果から見られた質問項目(32)と正答率との相関



肯定的に回答した児童生徒の割合は全国と比べて、小学校・中学校ともに上回っている。「とてもそう思う」または「そう思う」と肯定的に回答した児童生徒は、「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答した児童生徒と比較して正答率やIRTスコアが高くなっている。特に算数・数学の正答率の差が大きかった。

児童・生徒
質問調査

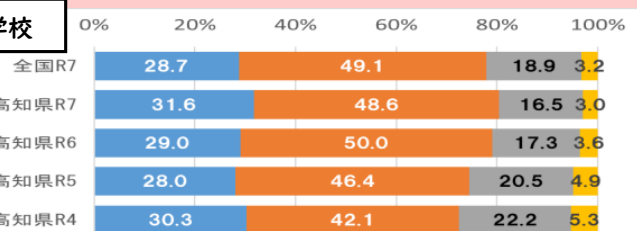
(33)

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

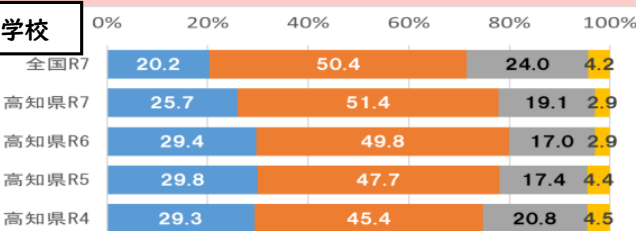
高知県（経年）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

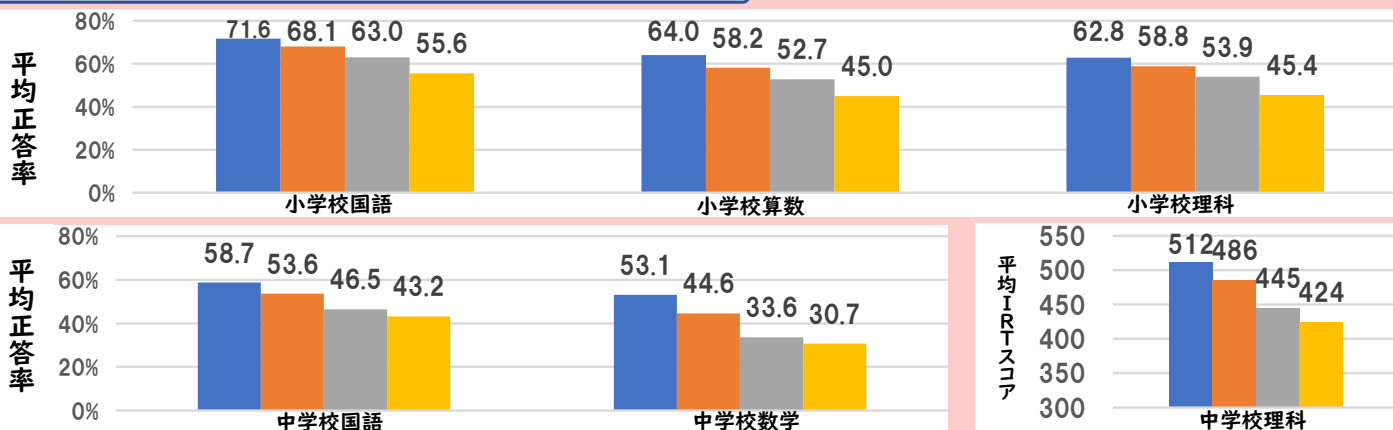
小学校



中学校



令和7年度調査結果から見られた質問項目(33)と正答率との相関



肯定的に回答した児童生徒の割合は全国と比べて、小学校・中学校ともに上回っている。「とてもそう思う」または「そう思う」と肯定的に回答した児童生徒は、「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答した児童生徒と比較して正答率やIRTスコアが高くなっている。特に算数・数学の正答率の差が大きかった。

学 習 習 慣

児童・生徒
質問調査

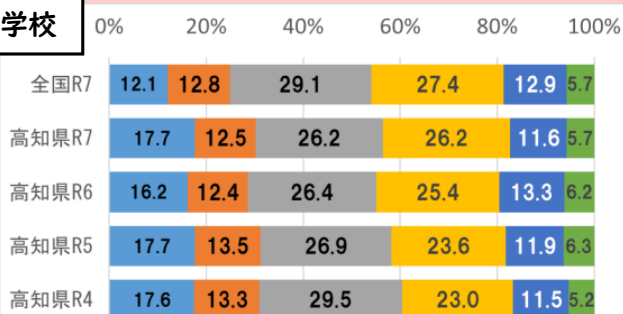
(17)

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強をしている時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

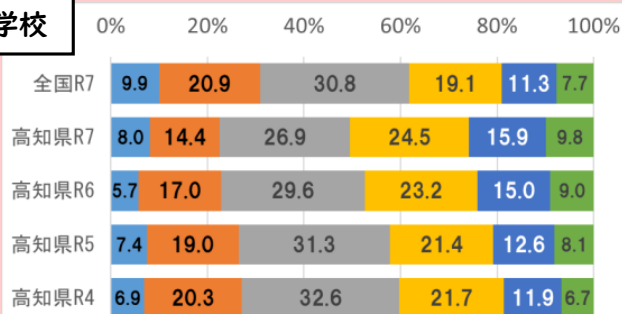
高知県（経年）

3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない

小学校



中学校



児童・生徒
質問調査

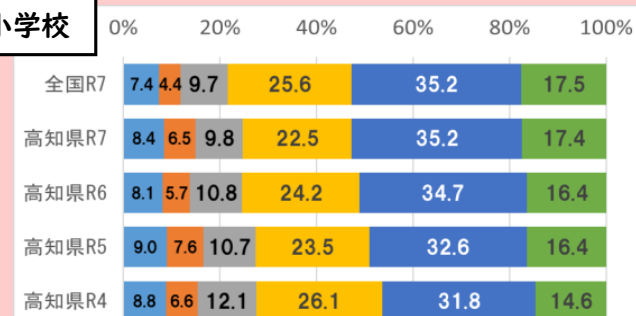
(19)

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強をしている時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

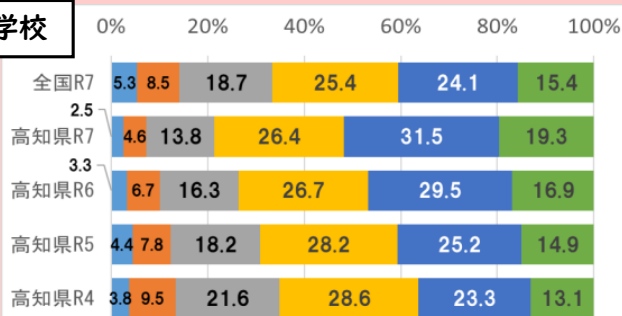
高知県（経年）

4時間以上 3時間以上、4時間より少ない 2時間以上、3時間より少ない
1時間以上、2時間より少ない 1時間より少ない 全くしない

小学校



中学校



小学校においては、平日で1日あたりの勉強時間について、「全くしない」と回答した児童の割合は、令和6年度より減少しているが、土日においては、増加している。中学校において、平日・土日とも、1日あたりの勉強時間について、「全くしない」と回答した生徒の割合は、令和6年度より増加している。令和4年度からの経年で見ても、小学校・中学校ともに、平日・土日いずれにおいても、増加傾向にある。

児童・生徒
質問調査

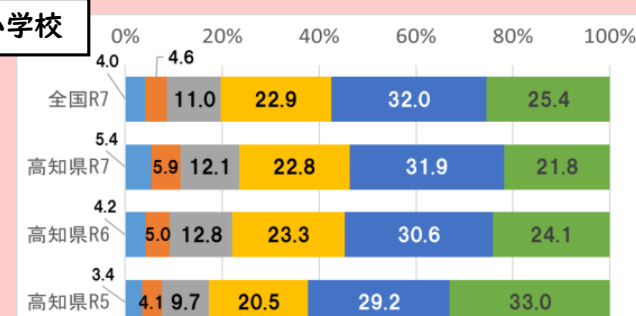
(18)

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）

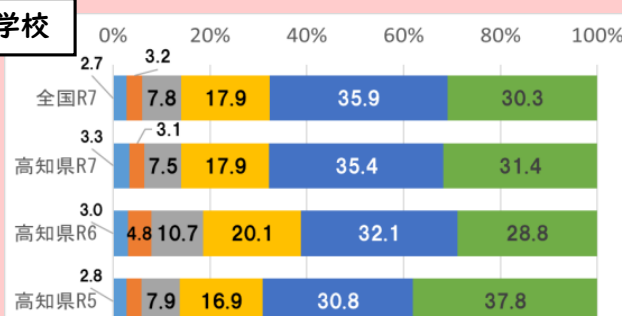
高知県（経年）

3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全く使っていない

小学校



中学校



「全く使っていない」と回答した割合は、全国と比べて、小学校では3.6ポイント下回っているが、中学校では1.1ポイント上回っている。また、令和6年度と比べて、小学校では2.3ポイント減少し、中学校では2.6ポイント増加している。

ICTを活用した学習状況

学校
質問調査

(58)

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

高知県（経年）

R7

ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）

ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）

週3回以上

週1回以上

月1回以上

月1回未満

R6まで

ほぼ毎日

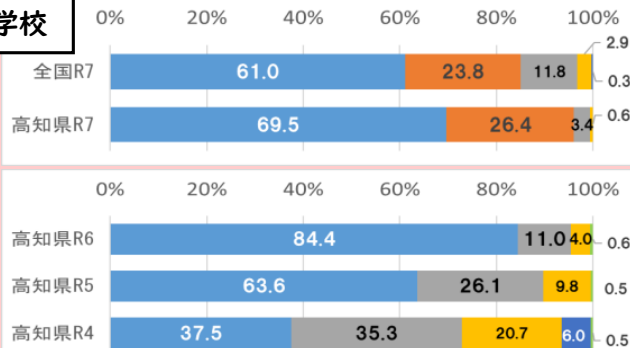
週3回以上

週1回以上

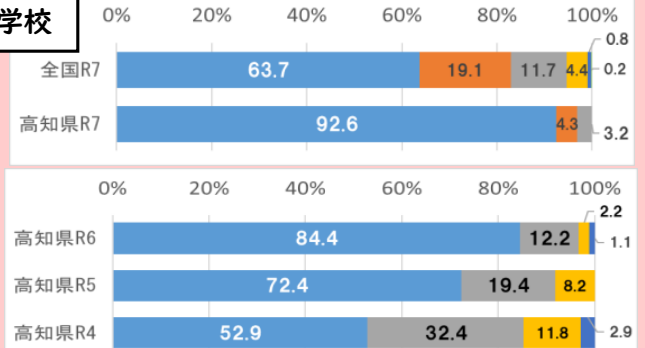
月1回以上

月1回未満

小学校



中学校



「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、全国と比べて小学校では8.5ポイント、中学校で28.9ポイント上回っている。また、令和6年度と比べて、小学校では11.5ポイント、中学校では12.5ポイント増加している。令和4年度からの経年で見ても、小学校・中学校ともに大きく増加している。

学校
質問調査

(59)

調査対象学年の児童（生徒）が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

高知県（経年）

ほぼ毎日

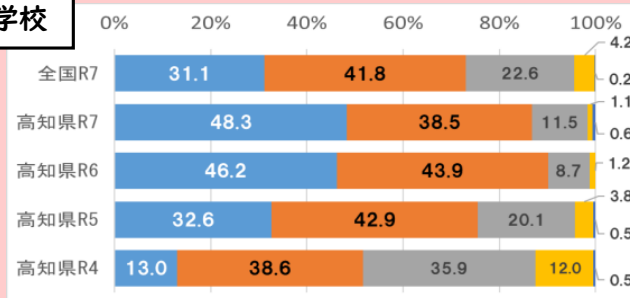
週3回以上

週1回以上

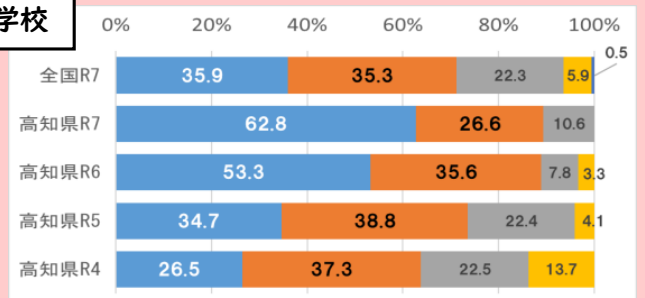
月1回以上

月1回未満

小学校



中学校



「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校では17.2ポイント、中学校では26.9ポイント上回っている。また、令和6年度と比べて、小学校では2.1ポイント、中学校では9.5ポイント増加している。令和4年度からの経年で見ても、小学校・中学校ともに大きく増加している。

学校
質問調査

(60)

調査対象学年の児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

高知県（経年）

ほぼ毎日

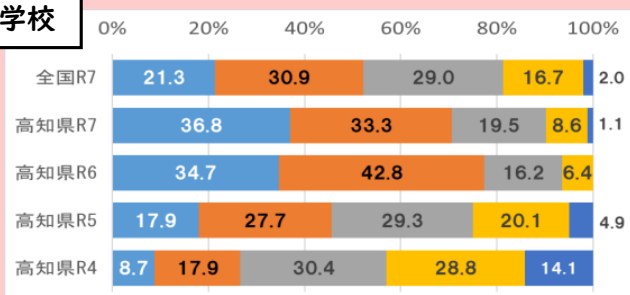
週3回以上

週1回以上

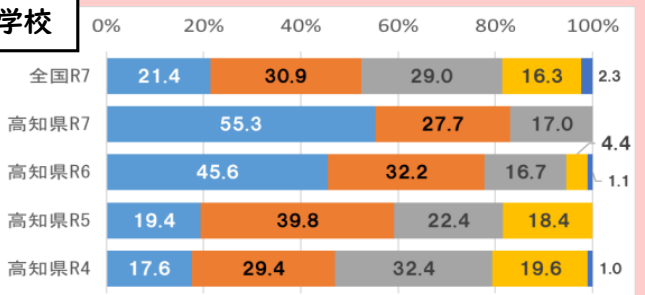
月1回以上

月1回未満

小学校



中学校



「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校では15.5ポイント、中学校では33.9ポイント上回っている。また、令和6年度と比べて、小学校では2.1ポイント、中学校では9.7ポイント増加している。令和4年度からの経年で見ても、小学校・中学校ともに大きく増加している。

ICTを活用した学習状況

学校
質問調査

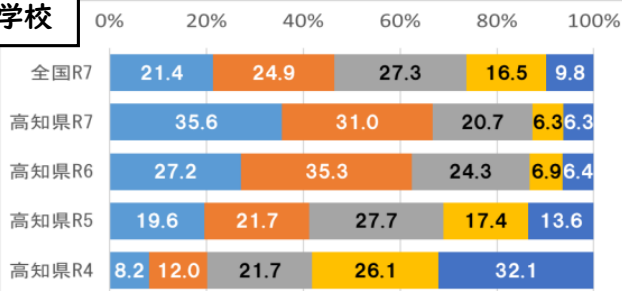
(62)

調査対象学年の児童(生徒)同士がやりとりする場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

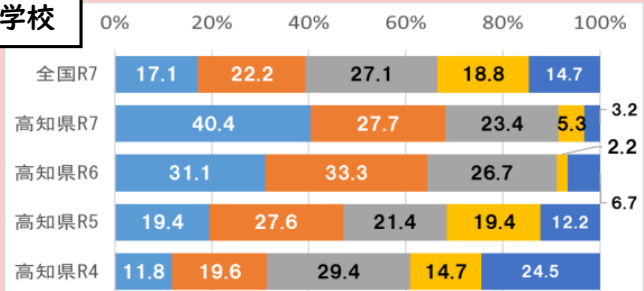
高知県(経年)

ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 月1回未満

小学校



中学校



「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校では14.2ポイント、中学校では23.3ポイント上回っている。また、令和6年度と比べて、小学校では8.4ポイント、中学校では9.3ポイント増加している。令和4年度からの経年で見ても、小学校・中学校ともに大きく増加している。

学校
質問調査

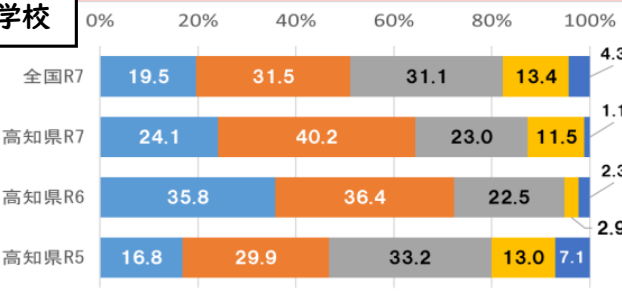
(63)

調査対象学年の児童(生徒)が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

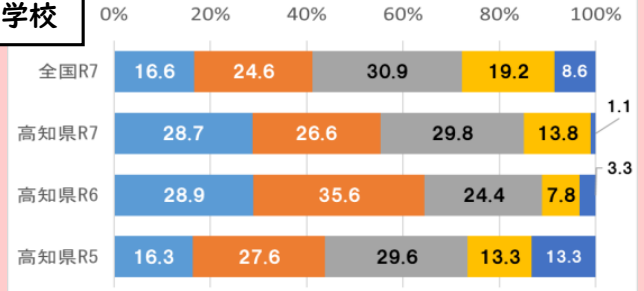
高知県(経年)

ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 月1回未満

小学校



中学校



「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校では4.6ポイント、中学校では12.1ポイント上回っている。しかし、令和6年度と比べて、小学校では11.7ポイント、中学校では0.2ポイント減少している。

学校
質問調査

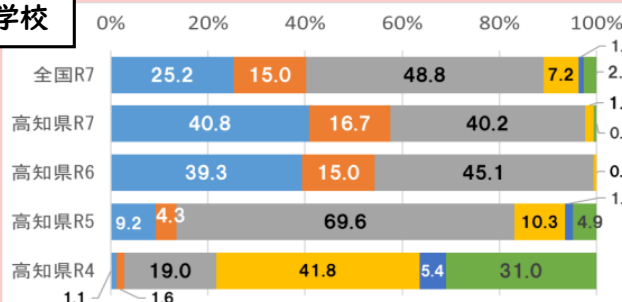
(66)

児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

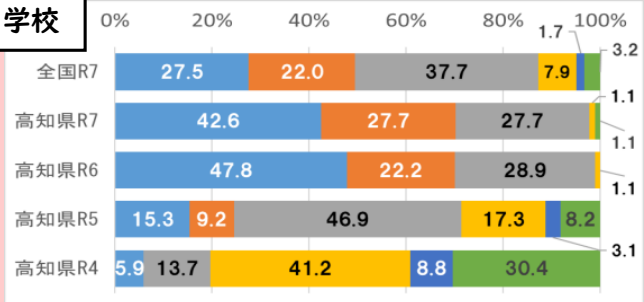
高知県(経年)

毎日持ち帰って、毎日利用させている 毎日持ち帰って、時々利用させている 時々持ち帰って、時々利用させている 持ち帰らせていない 持ち帰ってはいけないこととしている 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

小学校

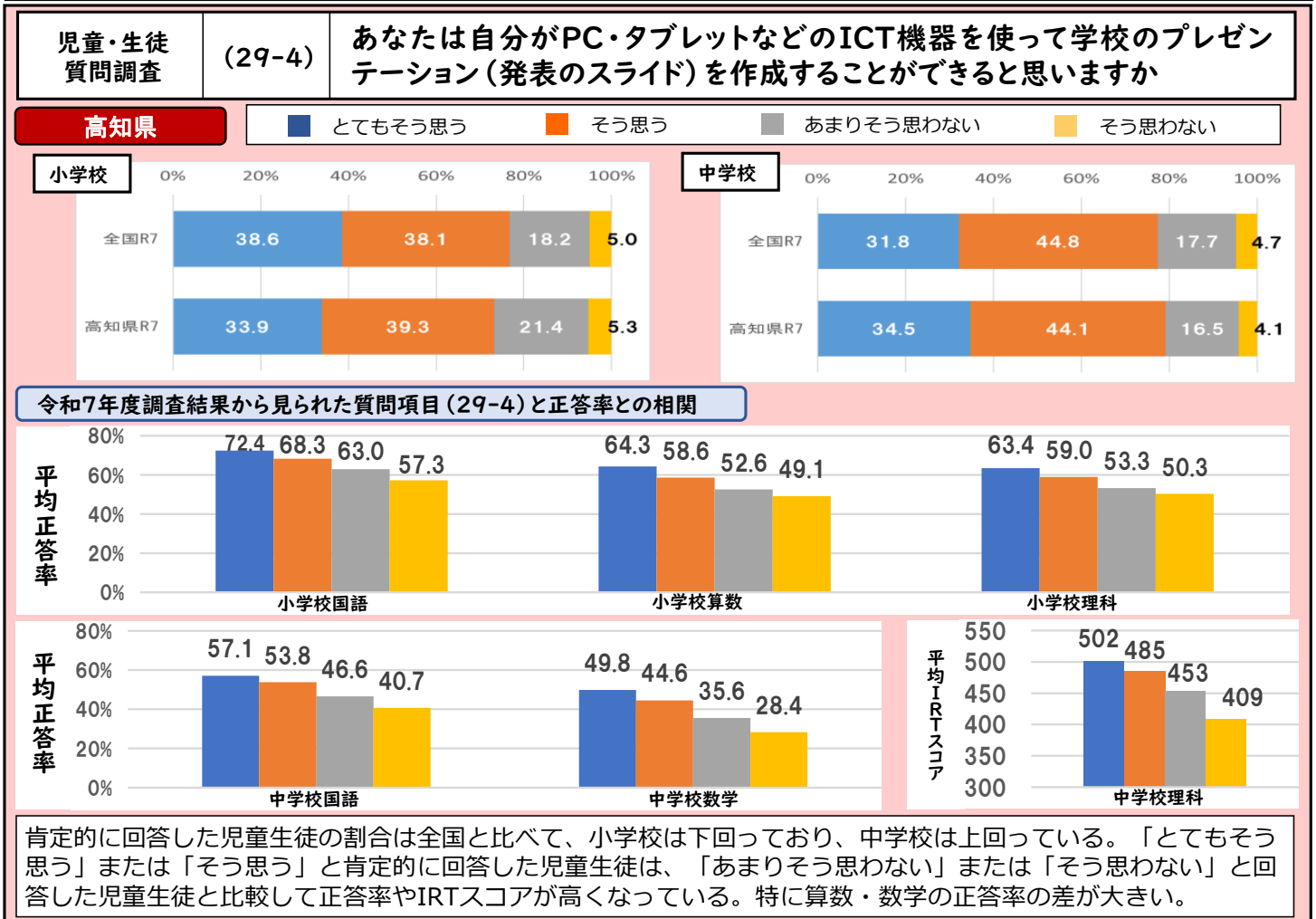
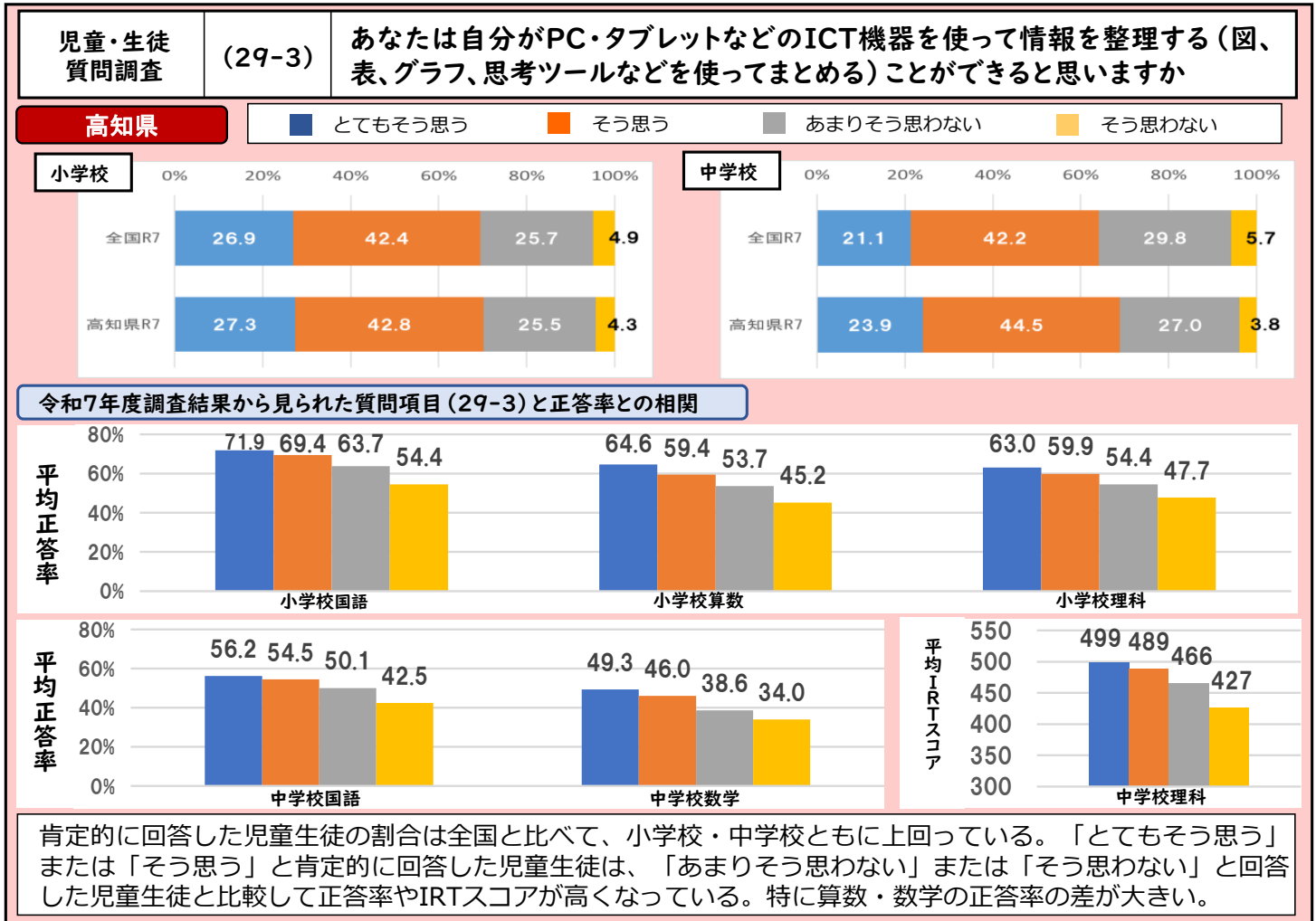


中学校



「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校では15.6ポイント、中学校では、15.1ポイント上回っている。また令和6年度と比べて、小学校では1.5ポイント増加し、中学校では5.2ポイント減少している。

ICTを活用した学習状況





令和7年度 高知県教育委員会事務局小中学校課の取組

組織づくり

○学力向上のための学校経営力向上支援事業

学力調査等で明らかとなった学力課題を解決し、児童生徒の生きる力を育成するため、中長期的な視点に立った学校経営計画に基づく学力向上に向けたPDCAサイクルを確立し、学校の組織力向上を図る。

○組織力向上推進事業

小学校教科担任制及び中学校における教科のタテ持ち等による授業改善への取組を一体的に捉え、小・中学校の円滑な接続を図ることにより、義務教育9年間を見通した指導体制を構築する。

授業づくり

○学力向上検証サイクル確立事業

学力調査等の結果から明らかになった学力課題の改善状況を把握し、学習指導の充実や指導方法の改善を図る。

○「令和の授業を創る」推進プロジェクト

児童生徒が自己の学びを調整しながら主体的に学び、各教科等で求められる資質・能力（生きる力）を身に付けるため、学習の基盤となる情報活用能力を発揮しながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくりを目指す。

○英語教育強化プロジェクト

言語活動を中心とした4技能（聞く・話す・読む・書く）統合型の授業への転換と、基礎学力及びコミュニケーション能力の向上を図る。また、グローバルな視野をもち、高知の魅力を発信できる人材の育成を図る。

○言語能力・情報活用能力育成プラン

学校図書館を活用して言語能力・情報活用能力を育成し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図るとともに、読書活動を推進し、児童生徒の不読率の改善を図る。

○理科教育推進プロジェクト

授業研究会や実験講習会等の開催を通して中核教員を養成・育成し活用することで、授業の改善・充実を図るとともに、児童生徒の科学への興味・関心等を高める。

○ICT活用力向上事業

クラウドを活用した授業イメージをつかみ、一人一台端末やデジタル教材を効果的に活用した授業や、授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化等の実践を普及することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

地域連携

○道徳教育実践力向上プラン

「考え、議論する道徳」の授業の充実と、地域ぐるみの道徳教育の推進により、児童生徒の道徳性の向上を図る。

○キャリア教育強化プラン

小・中・高等学校を通じたキャリア教育を推進するとともに、各地域の特色を生かしたキャリア教育を支援し、児童生徒のキャリア発達を促す。

○探究的な学び推進事業

地域の教育資源「人・もの・こと」に関わり、探究的な学びを通して、よりよく問題を解決していく児童生徒の育成を目指す研究や実践の充実を図るとともに、ふるさとを誇りに思う心を育む。

○放課後等における学習支援事業

小・中学校における放課後等学習支援員の配置の支援を行うことで、放課後等の補充学習を充実させ、基礎学力の定着や家庭学習習慣の確立を図る。